

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 碧晴会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム川口結いの家)、
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	パラマウントベッド社 エスパシア 3 モーター電動ベッド (KA-N1481F)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月13日	10台	令和3年12月10日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 センサー内蔵式のベッドとナースコールを連動させ、各居室に配置。 見守りセンサーを稼働させ見守りを行っています。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) センサーの精度が高く、起き上がりから離床まで正確に検知されるため、夜間の見守り業務の負担軽減、事故防止への効果を発揮しています。 また、各利用者様の行動の傾向を把握・分析することで、センサー検知に対するスムーズな対応につながっており、より効果的な活用が可能となっています。</p>			

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人葆光会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム藤美苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3/4	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守りケアシステム M2 (FBR-N135W1/M2) フランスベッド	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月30日	12台	令和3年11月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 従来のベッド上センサーと床マットセンサー使用対象のご利用者様に使用している。 今回の介護ロボットには4つのモード(動き出し、起き上がり、端座位、離床)が搭載されている為、利用者様のADLに合わせて12人の利用者様を対象に常時使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上センサーを使用していた利用者様に関してはこれまでは誤作動も多く、誤作動による無駄な訪室が減り時間の短縮に繋がった。また、ご利用者様の持続睡眠ができ安眠確保につながった。 ・4段階のモード(動き出し、起き上がり、端座位、離床)それぞれに3段階の感度が決められる為、様々な状態の利用者のシチュエーションほぼ全てに対応できておりケアプランも立て易くなった。職員のセンサー対応が早くなり事故のリスクも軽減、トイレへの対応も早めに対応できるようになった。 ・センサーコードによる事故のリスクが無くなった。コードの管理も必要無くなった為職員の介護時間の短縮に繋がった。 ・職員の過度な訪室や見守りが減少し精神的負担が減りました。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
利用者3人に対し職員1人配置。	利用者3人に対し職員1人配置。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
利用者3人に対し職員1人配置。	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
PHS機器を活用し、センサーも対応できるようにした。 LINEWORKSを活用する事により職員の仕事の効率化と負担軽減につながった。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
介護ロボットを各利用者のADLに伴って活用する事により利用者様の安眠確保が出来るようになった。センサー対応時、早期に対応する事によって事故のリスクを軽減できた。又、センサーの誤作動が無くなる事で職員の負担軽減につながった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
センサー内蔵型ベッドを増やす事により利用者様の事故のリスクの軽減や安眠確保に繋がっていったらと思います。他、職員の負担が軽減する事によって職員の離職防止に繋がって行けたらと思います。(職員が長期間当施設で勤務していく事により利用者様も安心して生活を送って頂けると思います)	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 八起社)
 事業所名 (特別養護老人ホーム東和荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2 ,		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りケアシステム	エスパシアシリーズ KA-N1571F		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月20日	4台 ,	令和3年12月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

「エスパシアシリーズKA-N1571F」の特徴は、従来のセンサーベッドの機能が、超低床型のベッドに備わっている。

認知症状を有した方の多いフロア、自己での立ち上がりや起き上がり出来るが、ふらつきや転倒が心配されるフロア、夜間多動な方が多いフロアでの設置を行っている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

「エスパシアシリーズKA-N1571F」の特徴は、従来のセンサーベッドの機能が、超低床型のベッドに備わっており、超低床型のベッドを必要とするフロアでは、センサーマットで対応する方法のみであったが、ベッドにセンサー機能が付くことで、夜間のベッド上での立ち上がりや、多動な方の寝返りによる転落等を監視し、センサーマットで対応できない転落転倒予防に有効である。

センサーベッドの機能の特性に合わせて、起き上がり、立ち上がり、片側ベッド偏りを監視でき、超低床型またはセンサーベッドで選択が迷う方にも利用の幅が広がり、利用者用の生活リズムに合わせた柔軟な見守りケアシステムの構築に貢献している。

フロアに設置のナースコールとの連動で、より反応性・視認性が増し、介護従事者のスムーズな対応にも貢献している。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人長福会)
 事業所名 (デイパーク大府特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	見守りケアシステム M2 FBR-N132		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月31日	3	令和3年12月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

見守りケアシステム M2 (FBR-N132 W2/M1) をデイパーク大府特別養護老人ホームの居室内に設置し継続してご利用様の状態に合わせて上手く活用ができております。個々の疾病によりナースコールを押せない方、又は認知症などで夜間、徘徊をされる方等の見守り用ベットとして活用させていただきます。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 見守りケアシステム M2 (FBR-N132 W2/M1) を導入利用することでご利用様の動きが察知でき、事故の防止や職員の見守りに対し精神的な業務負担の軽減に大変役立っております。特に夜間など職員の人数が少ない場合に大変活用できております。なので昨年度、大きな事故件数も減少いたしました。又職員が居室の見まわりに行く事によっての睡眠の妨げや、睡眠の質の向上に大変役立っていると思います。導入の効果に職員一同大変満足しております。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員 常勤 28人 非常勤 18人	介護職員 常勤 28人 非常勤 18人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
人員の体制には変わりありません。	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>e-ラーニングを用いて事故発生防止についての法人内研修の実施 昨年度より事故発生防止会議を設立し、意識の向上、事業所内で起きた事故・ドットキしたことに ついて分析する。 転倒事故に対する、研修を行い各職員の事故に対する意識の向上を図りました。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>誤報センサーによる無駄な、職員移動が格段に少なくなり効率の良い介護ができた。 適切な時間に休憩が取れるようになり、充実した援助が行えるようになった。 無駄な動きが減少し、ケアの質を上げることができた。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>重大な転倒事故の減少 不必要な職員の動きが削減され、業務の効率化が図れました。 転倒・転落事故等の精神的不安が軽減できている。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人 犬山あんきにくらそう会)
 事業所名 (宅老所今井あんきの家)
 サービス種別 (小規模多機能型居宅介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りベッド	パラマウントベッド エスパ ^シ アシリーズ KA-N142F		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月23日	9台	令和4年3月23日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】



低床ベッドのため、足の不自由な方でも安心して立ち上がりができています

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ① センサーが内蔵されているため、立ち上がり時にナースコールがなるため転倒・転落のリスクが軽減できる。
- ② ナースコールもあるため、利用者自身で用事がある時に介護者を呼べるため、利用者にとっても、介護者にとっても過度な訪室を避けることができる。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.0 : 1	2.5 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.5 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>① 見守りセンサーがあるため、訪問の回数が軽減できた。夜間巡視にトータル100分かけていたが、60分に軽減</p> <p>② 介護記録はiPadの導入を検討し、購入したが、記録用のソフトが入手に時間がかかり、現在まだ使用できていない。業者と連絡確認中。</p> <p>③ iPadの使用が実現されていないため、申し送りの方法に変化はないが、申し送り中にも見守りセンサーが稼働しているため、申し送りに集中して行うことができる。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① センサー付きのベッドのため、夜間の転倒リスクが軽減され、職員の身体的・心理的負担が軽減した。</p> <p>② 見守りセンサー導入により、夜間の定期巡視業務の負担が軽減した。おむつ交換など時間ごとに決められた訪問以外に訪問する回数を減らすことができた。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>① 記録業務の徹底削減</p> <p>② 夜間巡視の削減</p> <p>③ 転倒・転落の危険リスクの軽減</p> <p>④ タイミングを逃すことなく訪室できる</p> <p>⑤ 介護職員の心理的・身体的負担の軽減</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 仁医会)

事業所名 (西尾老人保健施設)

サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	眠り SCAN(NN-1320)パラマウントベッド株式会社		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月6日	6 /	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症や危険認知の乏しい利用者に使用している。 ・ 不眠の利用者に対して、睡眠状況を確認するために使用している。 			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠状況の確認のために何度も訪室する必要はなく、業務の負担軽減となった。 ・ 睡眠状態がグラフ化されることにより、見える化されスタッフの主観のみでない説明ができる。 			

(注)

- ・ 導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.94:1	1.5:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1.88:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、導入後間もないことから人員体制の見直しに至っていないが、今後異動等も含め効率化していく予定。 	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャン導入前は1時間ごとに定期巡回をしていたがモニター管理にて覚醒したタイミングで訪室している。 ・定期巡視にかかっていた時間をカルテ記載にあてる事ができ内容が充実した。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の定時巡視を減らすことにより、効率的な訪室が行える。それにより職員の移動距離が削減でき体力的な負担軽減につなげることができている。 ・訪室しなくても利用者の睡眠状況を把握できる、つまり見える化することにより、職員の安心感につながり精神的な負担軽減につなげることができている。 ・利用者の睡眠状況を把握しやすくなることにより、利用者の状況に応じたタイミングでのおむつ交換ができ、利用者の安眠につなげることができている。 ・これまで、職員が訪室した際に利用者の健康状態を目視によって確認していたが、体調の変化や異常を常に把握することができている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の業務に関する負担を軽減することにより離職防止につながる。また、介護現場、特に夜勤業務での負担軽減により、介護の仕事に対するイメージ向上を図ることができ、職員の新規採用につなげることが期待できる。 ・夜間の利用者の体調変化などに迅速に対応できることにより、利用者あるいは家族への安心感の提供につながる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社フレンズホーム)
 事業所名 (介護付有料老人ホームフレンズハウス下之一色)
 サービス種別 (地域密着型特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り機器	眠り SCAN NN-1320 (パラマウントベッド)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月30日	6	令和3年11月26日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 6台の見守り機器を導入した。 6名の利用者のベッドに設置。(29床中)</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 夜間帯の見守り巡視時間の短縮することができた。 夜間帯の巡視時に必要以上に入居者を起こすことなく、安全確認を行うことができ、介護者の心理的ストレスを解消できている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間帯 (20:00~翌5:59) 5:59) 29:2	夜間帯 (20:00~翌5:59) 5:59) 29:2
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
夜間帯 (20:00~翌5:59) 5:59) 29:2	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
介護ロボット導入前は、夜間は1時間おきに訪室していた。見守りセンサー導入後は、タブレット端末にて安否確認を行い、入居者の居室に訪問する回数を減らしている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
入居者が熟睡していることを把握できるため、入居者が熟睡している時間はオムツ交換を避け、より良い睡眠をとっていただいている。 また、入居者の安眠を妨げないことが、介護職員の精神的な負担を軽減している。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
入居者の睡眠時間を把握することにより安眠を妨げない。また、夜間に覚醒している入居者を把握することができ、その入居者を中心に様子見することにより、ベッドからの転落や転倒などの事故を軽減することが期待できる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 エヌエス)
 事業所名 (なごみの里)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム 「眠り SCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月1日	4台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

導入ユニットは決めずに必要性の高い入居者様に対して主に夜間帯に使用している。心拍数や呼吸数、動作状況をリアルタイムに把握できるため、睡眠状況を把握したり、ベッドからの動き出しによる転倒転落のリスクの軽減に繋がっている。また体調不良の利用者様の状況把握にも使用。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 これまでは入眠状況の有無にかかわらず、巡視などで睡眠を妨げてしまうことがあったが導入により、睡眠状況を把握でき入居者様の安眠にも繋がった。
 夜間の職員人数が少ないときに、遠隔で管理ができ、定期巡視の回数も一部減らせて、職員の負担軽減に繋がった。
 体調不良や看取り期の利用者様について心拍や呼吸数が遠隔で随時確認でき、職員の精神的な安定を得られている。

(注) _____

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
4 : 1	3.92 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
4 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
初めは一週間に 4 時間ずつ人員体制を減らそうと思いましたが、結局いない時間他の職員に負担がいてしまうため、4 時間ずつはなかなか減らせなかった。しかし、介護ロボットや介護ソフト導入のおかげで職員の負担は軽減できた。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の見守りでは 2-3 時間おきに訪室しているが、現在は 1 フロアに 2 台ずつ眠りスキャンを導入して定期巡視の一部を廃止し必要時に訪室するのと、1 フロアでは転倒防止のセンサー機能も兼ねてお一人使っている。延べ訪問回数を職員一人当たり平均 8 回減らした。 ・紙媒体から記録システムに移行し転記の削減やタブレットによる複数人の入力が可能になり、記録時間が削減した。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャンにて利用者様の睡眠状態を把握して介護サービスの質を向上させ夜間時の訪室を減らす。 ・認知症などにより、行動が掴みにくい利用者様の起き上がりに対して早く対応することができ、未然に転倒、転落事故を減らすことができる。 ・タブレットにより記録の統一化が図れる。 ・職員による申し送りが減り、速やかに休憩に入ることができる。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体的・精神的負担軽減に繋げられる。 ・利用者様の支援の充実・ケアの質の向上。 ・ペーパーレス化による管理労力や管理コストの削減。 ・電源の入れ忘れ等による人為ミスによる事故の削減。 ・資料の統合による効率的な業務の負担軽減。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安里)

事業所名 (株式会社安里 東海橋苑)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	コールマットN・スマート		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月24日	3台	令和4年1月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・導入台数が「3台」である為、対象者を選定。
- ・Ns コールの使用が困難、また立ち上がりや移乗時に動作不安定で転倒リスクの高い方やベッドから転落リスクの高い入居者様へ使用。
- ・主に夜間、徘徊頻度の高い方へ行動把握のために居室出入口へ設置し見守り、居室誘導を行っている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・徘徊で自室に戻れなくなっている入居者様へ迅速に対応できている事で、入居者様への安心と安全の提供が可能となった。
- ・当該機器の使用によって、入居者様が適宜必要とするケアが提供可能となった事と転倒・転落等事故を未然に防ぐ事で、職員の精神的負担の軽減と業務効率の促進に繋がっている。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 刈谷ケアサービスさくら)
 事業所名 (短期入所生活介護さくら)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
見守り支援	見守りシステム『眠りスキャン』			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和4年1月31日	20台	令和4年1月31日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>短期入所生活介護にて居室(20部屋)に『眠りスキャン』20台導入する。 利用者様の睡眠状態をモニターで確認出来る。</p>				
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <介護従事者> 『眠りスキャン』導入で利用者様が寝ているか分かるため、2時間ごとの巡回していた回数を軽減できた。 利用者様の体調等は巡回しないと分からなかったため、精神的不安があったがモニターで、「呼吸・心拍数」が分かるため安心できるようになった。 ベッドから降りたことも分かるため転倒のリスクも減った。</p> <p><利用者様> 巡回の際にモニターで睡眠中の利用者様の居室は時間をずらし訪問するなど、職員が居室に入る回数が減ったおかげで「良く寝れるようになった」などのお声は頂いています。</p>				

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>介護職員6名・看護職員1名・夜勤1名</p>	<p>介護職員5名・看護職員1名・夜勤1名</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>介護職員5名・看護職員1名・夜勤1名</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>・利用者様の状態（睡眠・覚醒）の変化に素早く気づき対応する事で転倒・急変の防止 ・夕食後、居室に誘導し臥床させる際、帰宅願望などで不穏のなる利用者様を変化が分からなかったため、遅番職員に残業して貰っていたが、モニターで確認できるようになり、残業時間の減少に取り組めた。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>・巡回回数を減らす事により、職員の休憩時間の確保が取りやすくなった。 ・モニターによる確認で職員の肉体的・精神的な負担が軽減した。</p>	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>・巡回時間にとられていた時間に、他の仕事の時間に充てれるようになり、作業効率アップ ・職員の休憩時間確保が以前より出来やすくなった。 ・利用者様が安全に利用出来るようになり、ご本人様・家族の満足度が上がった。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人杏嶺会)
 事業所名 (老人保健施設やすらぎ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りセンサー		眠りスキャン	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月11日	20台	令和4年1月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>眠りスキャンは各階の該当利用者に対して使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>睡眠状況、覚醒状況の把握と傾向に使用しており、睡眠の妨げにならないケア方法の確立と、昼夜逆転傾向になっている利用者に対しての適切なケア方法の確立を行っている。</p> <p>また、夜間帯の介護職員を1名減員し、全体の介護職員の総数に変化はないが、昼間勤務を多く配置できる状況となり、昼間勤務時間内で必要な業務を行い、夜間帯は、必要な時間にケアの提供ができることで、利用者側からは睡眠の妨げとならない事と、精神的、身体的にも介護負担の軽減となっている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>夜間の介護職員4名と看護職1名の5名体制</p>	<p>夜間の介護職員3名と看護職1名の4名体制により、昼間勤務数の増加</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>夜間の介護職員3名と看護職1名の4名体制 夜勤職員の減員する事で、昼間勤務者数の増加</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>見守りセンサーとインカム（インカム連携）を使用して、やらなければいけないケアが音声で確認し実行している。 記録についてもタブレット端末と介護記録ソフトの連携により、記録の効率性も向上できている。 ICT機器を駆使しながら、様々な場面で起こる不効率な探す業務をなくしその時に本当に必要な業務を行う指示している 夜間帯については、夜間に行うルーティン業務を廃止し人員を削除し、昼間勤務する職員を増やし、日々の事柄が昼間で完結できる体制づくりをしている。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>ICT機器を使用して、当日やらなければならない業務をスリム化して、優先順位を明確化するようにしている。また、スリム化することで利用者への個別性のあるケアを提供する事も指導している。休憩についても介助が必要でない時間帯に休憩ができるようにインカムで柔軟に休憩をとるように指導している。</p>	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>介護業務の分業化が可視化（聞こえる化）できる事が普通になる事 利用者とのコミュニケーション以外の業務については、誰がやってもムラなく同じ成果になれるように期待したい。</p>	

別添1- (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社さちコーポレーション)
 事業所名 (グループホームさち)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	眠りスキャン・eye		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月13日	18台 (eye4台)	令和3年12月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>①全居室眠りスキャンを導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途覚醒をモニター (またはスマホ) で確認してからトイレ誘導・パット交換を行っている ・体調不良の利用者について、心拍呼吸の記録を連携の訪問看護・医師に提出し、指示アドバイスを受け対応する等で活用している ・起き上がり検知があったタイミングで訪室し、状況確認を行っている <p>②転倒リスクの高い利用者・入居間もなく夜間帯の状態が分からない利用者を中心に4名選定し、プライバシーに配慮したうえで眠りスキャン eye を居室に4台設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒事故が発生した場合、発生時の撮影記録を確認し、発生の防止策検討に活用 ・夜間帯の居室内での様子を撮影記録で確認し、アセスメントに活用 (一定期間で取り外す等必要以上に設置しない) 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)</p> <p>①個別支援計画の資料として、夜間帯の排泄リズム・睡眠状態・生活リズムの把握に効果あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導 (パット交換) のタイミング ・就寝時間・起床時間の目安 ・眠剤の効果の評価、BPSD への対応 <p>②覚醒時の起居・移動動作不安定者の転倒防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eye (カメラ) の記録からより具体的な予防策を検討しやすくなる <p>③体調不良者の状態観察や体調変化の早期発見につながる</p> <p>④職員の負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手元のスマホで状況確認が行えることによる見守り等に係る時間の軽減につながった ・利用者を職員都合で起こさなくても良いことから、精神的な負担の軽減につながった 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
0.9 : 1	0.8 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
職員の退職・異動等が今後発生することから、人員変更前に交代職員を増員したため	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けた ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった利用者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進した 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行った ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC・モバイル端末にて、リアルタイムの各利用者様の状態確認ができるようにした ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更した ・睡眠リズムのデータを医師と共有し、状態にあった睡眠導入剤の処方や見直しを行った 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や利用者様ごとに合わせた個別ケアがさらに改善された支援となる ・利用者様を無駄に起こすことがなくなるため、利用者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・利用者様の睡眠時間確保できるようになれば、利用者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社フレンズハウス)

事業所名 (グループホーム フレンズハウス七番町)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和 ³ 年11月20日	4	令和 ³ 年11月19日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>夜10時から朝6時まで、18名中4名入居者に設置した。タブレットを使用して遠隔リアルタイムでモニタリングを実施し、睡眠状態を確認しながら巡視回数を減らした。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要以上の訪室を減らすことができ、入居者の安眠につなげることができた。 ・巡視回数が減ったため、夜間業務にゆとりと安定した休憩時間の確保ができ、身体的負担の軽減につながった。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
81 : 1	69 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
69 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>入居者18名中4名に見守りセンサー（眠りSCAN）を設置し、夜間の睡眠状態を遠隔リアルタイムでモニタリングしている。夜10時から朝6時までの間モニタリングを実施し、睡眠状態が安定していることを確認して巡視回数が通常の1/3程に減少した。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上に訪室することがないため、入居者の安眠につなげることができた。 ・巡視回数が減ったことにより、夜間の業務にゆとりができ、また安定した休憩時間をとることができた。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>安定している入居者に使用することにより、安眠を促すことを目的に使用できているが不安定・不穏な入居者に対して使用することで、異常の早期発見、事故防止につなげることができる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人すいと福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホームふぁみりい憩苑)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
見守り・コミュニケーション	「眠り SCAN」パラマウントベッド株式会社			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和3年11月15日	72台	令和3年11月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

- ・ユニットに配置されているパソコンや iPad を利用して入居者様の睡眠状況や覚醒状況の把握と分析に使用している。
- ・離床センサー機能もあるため、睡眠状況だけではなくセンサー機能としても活用できる。
- ・心拍数、呼吸数、動作状況をリアルタイムで把握し、業務効率化に繋がっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・これまでは入眠状況の有無に関わらず、定時訪室などで入眠を妨げてしまうことがあったが、導入により睡眠状況を把握でき入居者様の安眠にもつながった。
- ・リアルタイムで動きが把握できるため、職員の過度な居室への訪室回数が減少した。
- ・睡眠や覚醒データを把握することにより、その方の睡眠リズムを把握する事ができ、安眠だけではなく、スタッフの夜間業務の効率化に繋がった。
- ・看取り期の入居者様についても、スタッフの精神的な安心感を得られている。
- ・睡眠データの蓄積を分析できるようになり、日々のケアの参考になっている。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に早番、日勤、遅番、夜勤のシフト体制で2時間毎の定時巡視。夜勤職員が1人になる夜勤帯には特に精神的かつ肉体的にも負担が大きい。 ・入居者様の重度化により、直接介護業務が増加し、見守り職員確保が困難になりつつある。 	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臥床時間中の定時訪問を見直す事により、業務に余裕が生まれ、巡視業務の人員負担を全体で常勤換算 2.0 人程度軽減が見込まれる。 ・ユニット毎での業務分析を行い、業務改善や入居者様と触れ合う時間を増加させることができる。
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤職員の人数は最低基準もあり変更無いが、昼間は入居者様と触れ合う時間の増加につながった。しかし、直接巡視は減ったものの、眠り SCAN の「離床検知、覚醒検知」など反応があると積極的に訪室しており、職員の実働時間は大幅には減らなかったが、事故等の予防には繋がっている。 	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・定時訪室は減ったが、眠り SCAN の「離床検知・覚醒検知」による反応での訪室は増加した。 	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルームにてパソコンモニター越しに利用者様を見守ることにより、訪室することなく利用者様の睡眠状況を把握でき、「熟睡している時は訪室しない」などオペレーションを変更した。 ・居室で過ごす利用者の「睡眠・覚醒・起き上がり、離床」と臥床時の心拍数と呼吸数をリアルタイムで確認でき、覚醒者への対応を早急にするなどケアの優先順位を立てる事により、職員が効率的に業務でき事故リスクの低下にもつながった。 ・睡眠状況を記録作成時に何度も記録を転記する必要があったが、介護記録の電子化を行い情報の一元管理を行う事で、記録作成の負担が軽減。また、入居者情報の共有が可能となった。 ・介護業務の中での多忙な時間帯の把握と効率化につながった。 	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは定時巡視や定時のおむつ交換をすることにより、入眠中の利用者様を起こしてしまいケアの質低下を招いていたが、眠り SCAN を活用により、入居者の睡眠状況がリアルタイムで把握でき、最適なタイミングでの訪室や介入ができるようになる。これにより利用者様スタッフ共にメリットが大きい。 ・日々の睡眠状況を把握し、睡眠直前のおむつ交換をしないなど、利用者の状況に応じたケアを行う事ができる。これにより熟睡できる利用者様の増加が見込まれる。 ・これまでは休憩中にもコール対応する事があったが、睡眠状況の可視化により睡眠パターンや生活リズムの把握ができ、職員の休憩時間の確保や精神的にも身体的にも負担軽減となる。 ・臥床している利用者の心拍数や呼吸数も検知してアラート対応もできるため、バイタルサインの変化や心肺停止状態など、急な体調変化にも対応できる。 ・個人の睡眠状況を把握することで、日中と夜間に適したケアプランの作成につながる。 	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤帯を中心とした職員の精神的負担の軽減（介護負担による離職者の減少） ・利用者様及び家族様への睡眠状況の可視化による説明 ・バイタルサインの変化、急変時や体調変化の早期発見と転倒などの事故防止 ・睡眠導入剤や安定剤投与効果の検証 ・多職種間での情報共有 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)
 事業所名 (グループホーム「風楽里」)
 サービス種別 (認知症対応型居宅介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		エスパシアシリーズ KA-NN1481F	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	3台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 入居者様3名の居室に設置</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 安楽な起居動作の支援につながっている。 お一人お一人の体形に合った高さの細やかな調整が出来ることで、ご本人の持っている力を生かしたケアが出来るようになった。また、スムーズな動作と高さ調整が可能のため、介護者の負担軽減につながっている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤者 1 名	夜勤者 1 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
居起動作にすぐに気が付き素早く対応することが出来る。 利用者様の要望に迅速に対応し待ちの時間が減った。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ベッドからの転落の可能性のある方へベッドを超低床としての対応の検討をした。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
今後、布団生活だった方やベッドからの転落の危険のある方が安心して生活出来るような環境整備が出来る。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)
 事業所名 (グループホーム「風楽里」)
 サービス種別 (認知症対応型居宅介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCASN」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	3台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>眠りの状態の観察に利用</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>眠りの状態を視覚化することで、利用者理解につながっている。</p> <p>介護時間の軽減には効果が今のところは見られない。</p> <p>SCANすることで、介護の負担が減ることはないが、眠っていると思っていたが、実際は不眠の状態だとわかり、日中の傾眠や反応の悪さの一因であることが理解できた。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
-----------------	--

夜勤者 1 名	夜勤者 1 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の I C T 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサー	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
眠り状態を 可視化して、ご家族やかかりつけ医に開示してご本人理解の一助となった。職員の精神的ストレスの軽減になった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
特にないが、夜間の不眠に状態が理解できるが、より頻回に巡回することに繋がっている。ご本人の危険予防にはなるが、介護の負担は少々増えたような気がする。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社ウェルヴィレッジ)

事業所名 (介護付き有料老人ホームウェルホームからん)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
介護施設見守り	眠りスキャン (パラマウント社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月23日	20台	令和4年3月3日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】			
入居者の状況により設置すべき人を20人選択しベッドに装着。			

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・主に夜勤時の見守りとしてiPadで状況を見ながら対応しており、時間によっておむつの状態を調べていたが、スキャンにより睡眠状態が熟睡の状態のときは訪室しないようになった。
- ・入居者の睡眠リズムが把握でき、生活状態も見える化できた。
特に、新しい入居者の睡眠状態を24時間通して結果を見ることで、夜間に熟睡しているかどうかを初期に把握し、日中のケアに生かしている。
既存の入居者についても夜間時の睡眠状態や覚醒時間をグラフで見ることができ、生活リズムを整えるための情報となっている。
- ・職員がその利用者ごとに覚醒時の画面状態やそれに伴う入居者の行動を把握できてくれば、転倒や転落リスクを軽減につながる。
- ・入居者が熟睡していることが分かると、職員の心理的、身体的負担を軽減できる。
特に、元気な認知症でない入居者の睡眠時の状態が分かることで心理的負担を軽減できていることも大きい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.4 ; 1	2.6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.7 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
眠りスキャンを導入することで、見守りにかかる業務時間が減り、また法人内で別事業を行うタイミングがあり、その事業に既存人員を転属させることができた。予想以上の人員体制に対する効果が出ている。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャンにより、入居者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けるようになった。特に夜勤の休憩時間がしっかりと取れるようになった。 ・従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進している。 ・不要な訪室やおむつ確認業務が削減でき、利用者の不穏になる回数も減り、職員の心理的安定が確保され、業務効率化ができています。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャンの通知機能を活用し、職員が携帯するiPadやスマートフォンに、動きのあった入居者の情報が入り、タイムリーかつ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるようになった。実際に呼吸数が乱れた利用者すぐに駆け付けることができ、ドクターと連携をとり、早期入院につながり、利用者の安全強化につながった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者を無駄に起こすことがなくなるため、入居者の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者の睡眠時間確保ができるようになれば、入居者からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。イベントの準備や委員会の業務が残業や休出ではなく、時間内にできるようになる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 王寿會)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	エスパシアシリーズ 離床CATCHⅢ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月8日	20	令和3年10月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・ナースコール使用困難で転倒リスクのある方に使用している。
- ・ベッド上での介助が必要な方にも使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・端座維持のずり落ち・転倒を未然に防ぐ事が出来ている。
- ・電動でのギャッジアップが可能のため、職員の身体的負担軽減につながっている。
- ・ベッド上での食事介助の際に、適切な角度での統一した介助を行えている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
25 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定する。 ・センサーの反応データ化し、把握することで巡回・排泄介助スケジュールを作成する。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入眠時、食事介助時のベッドの角度設定を、入居者に合わせマニュアルを作成する。 ・センサーの反応データをもとに、起床前の声掛け・トイレ案内を行う。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定することで、入居者に合わせたタイミングで対応が可能になり、業務効率が向上した。 ・正確な通知が行われる為、転倒・転落事故を未然に防ぐ事が出来ている。 ・入眠時・食事介助時のベッドの角度設定を、デジタル表示で確認できる為、入居者に合わせたマニュアルを作成することで、食事介助時は、誤嚥を防ぎ、入眠時は良眠して頂いている。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 王寿會)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「眠りSCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月8日	22	令和3年10月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・昼夜逆転気味の方や状態悪化(特変)の可能性のある方に使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・睡眠状態を把握する事で、適切な排泄タイミングを見計らいパット交換やトイレ誘導を行う事が出来ている。
- ・状態が悪い方を常にタブレットで確認できる為、安心して業務に取り組む事が出来る。
- ・昼夜逆転気味の方の生活リズムを見直す事で、夜間の良眠に繋がっている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
25 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>・導入以前は、夜間の排泄介助は一律に巡回し行っていたが「眠りSCAN」を活用することで、対象者の覚醒のタイミングで排泄介助を行う。</p> <p>上記の取り組みとして、入居者の睡眠データから睡眠リズムを割り出し巡回・排泄スケジュールを作成することで効率化を図っている。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>・看取りの方に使用し、心拍・呼吸データを医師、看護師へ報告し、状態把握の資料として職員の情報共有を行う。</p> <p>・失禁してしまう方をリアルタイムでモニターし早期発見、ケアに活用する。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>・夜間の巡回・排泄介助スケジュールを作成することで、不必要な排泄介助を削減し介護時間の短縮が期待できる。また、入居者の覚醒時に介助行うことで、眠りの質を良くできる。</p> <p>・失禁してしまう方に活用することで、寝具や衣類の汚染などを未然に防ぎ職員の負担軽減し、入居者にも清潔にすごして頂ける。</p> <p>・看取りの方に使用することで、状態把握を行い職員の精神的負担軽減につながる。また、御家族や囑託医への細やかな報告ができる。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人清明福祉会)

事業所名 (建国ビハーラてんまん)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月	2セット	令和4年1月13日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・フロアごとのWi-Fiを強化した上で、各フロア会議で決議したデータ取りの必要性が考えられる利用者2名の眠前薬使用後以降の入眠、覚醒、起床状況の把握とデータ取りとして使用。
- ・日付別で細かな入眠、覚醒、起床データの見える化と振り返りデータとしての蓄積。
- ・訪問診療時にDrへのデータ提出(お薬の効果の見える化)
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・日々、利用者2名の入眠、起床状況の細かな把握と連続的なデータ取りが出来る点。
- ・過度な巡視、見守りを行う事で利用者の入眠の妨げになる不安が解消される。
- ・PC画面上で利用者の覚醒タイミングを早期把握が可能となった点。
- ・ベッドセンサー以上に細かな体動に対する反応があり、夜勤者がPC画面を見ている時であれば、よりリアルタイムな対応につながっている点。
- ・データの蓄積がすぐに見える化される為、協議検討のスムーズ化につながる。
- ・ベッドセンサーの代替機としての候補のひとつとなり得る可能性の考察ができた点。
- ・居室内スペースのさまたげとならない点。
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握が可能である点。
- ・夜勤者の不要であった場合の居室訪問回数の軽減。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護・看護職員の人員配置 3.87:1	介護・看護職員の人員配置 3:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護・看護職員の人員配置 5.5:1	
②と③が異なる場合はその理由	
利用者の重度化に対応するため、人員の増加をすすめた。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
夜勤帯の巡視回数を見直し、職員の負担を軽減させた。 利用者の重度化に対応し、体調の変化や急変時にバイタル測定をし、データ化する。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠、覚醒の状況を把握することで、排泄介助、起床介助のタイミングを計り、利用者の生活リズムに合わせたケアの取り組み。 夜間帯の過度な巡視を減らす。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
夜間帯の巡視回数を減らし、職員の夜間帯の休憩時間を確保する。 利用者ごとの生活リズムを把握し、個別ケアを実践できる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 長生福寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 二方の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			・	1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名				
見守り支援機器	HitomeQ ケアサポート				
導入時期	導入台(セット)数	購入(契約)日	リースの契約期間		
令和4年3月1日	90	令和3年12月15日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>2月は、見守り機器を整備しつつ、通信環境整備を並行して行い見守り機器のデータが正確にサーバー等に送られるかを確認した。併せて、3月からの正式稼働に向けて、職員に対する機器の使用方法等の定着支援研修を行った。また、利用者ごとの特性に合わせた通知設定の検討を行った。</p> <p>3月1日から正式稼働を行い、勤務職員が起床、離床、転倒、呼吸なしの通知をiPhoneで受けるとともに通知内容に応じて居室に駆けつけ利用者へのケアに生かしている。</p>					
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>今までわからなかった利用者の行動パターンがわかることがあり、ケアに生かすことができている。</p> <p>利用1か月のため通知記録から訪室の必要性を的確に判断していくのには、もう少し時間が必要と考える。</p> <p>転倒時の通知画像により転倒の原因が、わかることで転倒防止につなげていけるようヒヤリハットや事故報告書作成に活用、工夫していく必要がある。</p> <p>転倒リスクの高い方への高感度モードの設定等個々人に合わせた修正を行っていくことが重要。</p> <p>夜間の訪室を工夫することで利用者の睡眠確保につながると考えられる。</p>					

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間勤務体制 8名	夜間勤務体制 6名(25%の減) フロアをまたいだ駆け付けにより2ユニットで1名体制とする。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
夜間勤務体制 6名(25%の減) フロアをまたいだ駆け付けにより2ユニットで1名体制とする。	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>1フロア3ユニットの施設構造のため、現在、フロア2名で夜間勤務を行っている。</p> <p>HitomeQ ケアサポートを導入することで離れた場所でも複数同時に、早期に映像確認ができるため、フロアをまたいだ駆け付けが可能になる。これにより、例えば、奇数階の介護職員を1名ずつ減らす形での運用が可能となる。これにより介護職員の勤務体制の見直しを行うことで他の時間帯の介護体制(入浴時間帯等)の効率化も図っていく。</p> <p>スマートフォンから現場で直接ケア記録の入力を行うことができれば紙での記録を削減ができる。また、場所を移動してのケア記録の作成がなくなることで記録漏れやあいまいな記録にならないようにしていく。紙による報告がなくなることで施設全体の事務の軽減につながり、介護の質の向上に時間を割くことができる。</p> <p>(iPhone 導入内訳 医務7台 介護35台 事務2台 緊急連絡2台)</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>夜間の巡回回数：合計8回⇒4回(50%の減)</p> <p>記録ソフトとの連携ができれば、記録作成業務のタイミングを見直すことで、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。</p> <p>夜間以外では、介護職員の日中配置する人員を、利用者2人に対して職員1名程度としている。</p> <p>現状から、下記の人員体制へ</p> <p>介護職員：日中40人程度⇒36人(10%減)</p> <p>利用者のケアの質の向上を目指す検討会を2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>1時間に1回の夜間巡回の負担軽減により介護職員の精神的・身体的負担の軽減が図れる。</p> <p>夜勤回数の減により休暇等の取得増につながる。</p> <p>利用者の方の居室への訪問回数が減ることで安眠できる時間が増え利用者の方の満足度が上がる。</p> <p>日中の見守りの負担軽減により、入浴介助など必要となるケアに人員を割くことができ利用者の方の満足度が上がる。</p> <p>日中の空き時間が増えることで新人など経験年数の短い職員へのOJTへの取り組みを行う時間が取れることになり職員の能力向上につながる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 エール西尾)

事業所名 (特別養護老人ホーム 三和の里)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム 「眠りスキャン」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月9日	1セット	令和3年12月9日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・特別養護老人ホームでは、主に対象者の一般状態とターミナルケアの管理データとして利用している。
- ・使用に当たっては支援チームでアセスメント後、必要性がある場合のみ使用。

*プライバシーに配慮した支援内容とする。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・令和3年度は3名の看取り対象者でターミナルケアのエビデンスとして評価している。バイタルサイン・覚醒状態等を観察。見取りまでの経過の分析から、今後の対応策の考察資料として活用している。
- ・排泄介助のタイミングや回数についてアセスメントをして、徐々に排泄業務の軽減や睡眠時間の確保が優先可能となった。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人あやめ会)

事業所名 (介護付き有料老人ホームつくし)

サービス種別 (地域密着型特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月26日	29台	令和3年11月26日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・全居室のベッドに設置、電波を飛ばしモニターへ転送されている。 ・職員室にモニターを設置しており夜間の睡眠状態を把握できる環境になっている。 			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <ul style="list-style-type: none"> ・主に夜間帯の独歩の方の見守りがしやすくなっており転倒事故が減っている。 ・主に夜間帯の介護従事者の負担が軽減されている。 ・介護ソフトに連動しており夜間帯の睡眠状態のモニタリングが可能。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
利用者様 3 人に対し職員 1 人	利用者様 3 人に対し職員 1 人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
利用者様 3 人に対し職員 1 人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>データとロボットが連動しており睡眠状態を把握し、ケアに反映することができている。</p> <p>夜間多動により訪室回数の多い利用者様の訪室回数が減っている。そのため訪室時の物音で起こしてしまうリスクが減っている。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
職員室にモニターを設置し全部のロボットの稼働状況が把握できるようになり負担が減っている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
データの活用や職場環境の改善。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人瑞祥)
 事業所名 (特別養護老人ホームビラ・オレンジ)
 サービス種別 (介護福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	エスパイアシリーズベッド KA-N1411J (離床 CATCH 内蔵) (パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月 20日、21日	96台 /	令和3年12月21日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・導入時、使用方法についての研修を2日間(12/20、12/21)実施後に入所者全員のベッドとして使用開始する。
- ・ベッドに内蔵されたセンサー(離床CATCH)を使用し、利用者様それぞれの状態に合わせたセンサー設定(起き上がり/端坐位/離床/見守り)を夜間帯中心に使用する。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・従来の床設置型センサーマットに比べて、利用者様がベッド上に起き上がった直後の早い段階でセンサー通知がされるため、利用者様が一人で立ち上がる前に訪室し、見守り確認することができる。また、利用者様のまわりに機器やコードを設置する必要がないので、つまずきや、配線抜けによる動作停止等の心配がなくなった。
- ・従来のベッドより低床となり、利用者様の転倒・転落があった場合でものケガのリスク軽減に繋がった。また、ベッドの高さ調整幅も大きくなり、職員の腰痛予防にも繋がっている。
- ・夜間帯の巡回及び見守り頻度を減らすことができ、業務の効率化や利用者様の満足度が高まり、職員のモチベーションが向上することで人材の定着や確保に繋がった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>介護、看護職員的人员配置 2.5 : 1</p>	<p>介護、看護職員的人员配置 2.7 : 1</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>介護、看護の人員配置 2.7 : 1</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>見守りセンサー導入前は利用者様の睡眠状態や呼吸状態、予測しがたい突然の起き上がりや立ち上がりなどの行動を常時把握し転倒や転落リスクを低減させるための頻回な巡回及び行動の見守りを行う必要があったが、見守りセンサー（離床CATCH）を導入活用することで、ベッド内に内蔵されている荷重センサーがベッド上の利用者様の荷重の変化を検知し、立ち上がりや端坐位などの離床行動に変化があった際、ナースコールに連動し通知されるため、転倒、転落の危険を事前に察知し行動の見守りをリアルタイムに行うことで巡回及び見守り頻度の減少がなされ業務の効率化を図ることができる。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>① 夜間の巡回及び見守り体制の見直し、効率化を図ることで転倒や転落のリスクを低減し、ベッドからの転倒等による骨折や外傷を伴う事故を未然に防止し、利用者様及びご家族が安心して生活できるようにする。</p> <p>② センサーの活用により巡回及び見守り頻度、回数を減少させ、業務の効率化を図ることで、その時間を活用し、利用者様と密に接することで質の高いケアを行うことができるようにし、利用者様の満足度向上や職員のモチベーション向上につながるができる。</p> <p>③ 離床CATCHⅢの通知履歴の活用により、利用者様の行動パターンを把握、分析することで、主体性や個別性を尊重し、科学的な介護を実践している。</p>	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>① ベッドに内蔵されている離床センサーを使用することで、利用者様の夜間帯の離床を常時把握して迅速な対応ができるため、転倒や転落事故を未然に防止することができる。</p> <p>② 夜間巡回及び見守りの頻度を減らし、職員を他の業務にあてることで配置人員を減らすとともに職員の身体的、精神的負担の軽減を図ることができる。</p> <p>③ 一人ひとりの利用者様の行動パターンを把握することで個別性を尊重した自立支援介護に繋がる。</p> <p>④ 業務の効率化や利用者様の満足度が高まり、職員のモチベーションが向上することで人材の定着や確保に期待ができる。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 元気寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 葉栗の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	マットセンサー M-68・小電力型ワイヤレス接点 ECE5301・取付けアダプター		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月30日	5	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>フットセンサーを転倒・転落の危険のある入居者の部屋にあるベッド足元へ設置し、入居者の足がフットセンサーに触れた際に、職員が駆けつけ転倒・転落の事故を回避できている。 入居者様及びご家族様に対し、使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>入居者の暮らしの場の中で、入居者が自由に寝起きできる環境の中で、入居者の様子を細目に部屋を確認するところから、フットセンサーの活用により、必要最低限の訪室で対応出来るようになり、その空いた時間で入居者の要望や希望に沿った支援ができると期待できた。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>転倒のリスクが高い入居者への対応が必要で、多職種や他部署など、多く職員を配置する必要があった。 (日中：ユニット職員3人+看護師、ケアマネ、相談員、事務員の職種の内1人が対応。夜間は職員1人で対応するが、1時間毎に訪室し、安全確認を行っている。)</p>	<p>多職種や他部署の職員が見守りを行うことが減り、ユニット職員だけで対応が可能となる。 (日中：ユニット職員3人で対応が可能となる。多職種の協力が必要なくなる。夜間は職員1人は変わらないが、フットセンサーが鳴った際と2時間毎の訪室に変わり、訪室回数が半減)</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>多職種や他部署の職員が見守りを行うことが減り、ユニット職員だけで対応が可能となる。 (日中：ユニット職員3人で対応が可能となる。多職種の協力が必要なくなる。夜間は職員1人は変わらないが、フットセンサーが鳴った際と2時間毎の訪室に変わり、訪室回数が半減)</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p> </p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>フットセンサーの活用により、今までより転倒のリスクが高い入居者に対して、訪室回数が1時間に1回程度の訪室だったのが、2時間やフットセンサーが鳴った際の訪室に変わり、訪室回数が半減以下に削減できる。また、ユニットの職員だけでなく、多職種の職員や事務員が見守りを行っていた状況からユニット職員だけで対応が可能となる。職員がその空いた時間で入居者の要望や希望に沿った支援ができる。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>転倒のリスクが高い入居者の方や低い入居者の方が混在する中で、今までは、転倒のリスクが高い入居者の方の見守りが必要なため、人員を多く確保しなければいけなかったが、フットセンサーの活用により、本人の行動が把握できるようになり、人員の確保が必要最低限で可能となる。そのため、削減となった時間や人員は、他の入居者へ手厚い支援ができるようになり、職員も休憩時間が確保、有給休暇の取得も見込まれる。また多職種で対応していたことが、ユニット職員で対応が可能となり、多職種の職員も自身の仕事に専念できる。</p>	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>フットセンサーの活用により、効率的な支援や休憩時間、有給休暇の取得など、入居者にとってもより良い支援を受けることが出来る、職員にとっても適切な処遇や精神的な負担が軽減できることにより、相乗効果でより良い介護サービスが提供できると期待できる。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 福寿園)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわりの街)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	HitomeQ ケアサポート コニカミノルタ製 QOL ソリューションズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月14日	80台,	令和3年11月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・全個室に見守りを目的としたセンサーカメラを設置。
個別設定を行うことで、リスク回避ができ静止画・ライブ映像で確認ができるため職員の行動の無駄と入居者の睡眠の妨げを防ぐことができています。
- ・スマートフォンの利用に変更となり、職員が慣れるまで十分に活用できるまで時間が必要であるが、転倒時の自己分析含め対策を想像で考えるのではなく映像で見た上で対策が経てることができるので再発防止に活かすことができています。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・センサーマットを使用していたが、個別設定で起床時・離床時で設定ができるためリスクの高低で対応できている。更に、ライブ映像で確認ができるので無駄な訪室が無くなり、職員・入居者ともに負担の軽減を図ることができています。
- ・居室内での転倒事故では、事故前後の動画が残り原因の確認から確実な対策が可能となった。
- ・職員個々がスマートフォンを持つことにより、内線の無駄がなくなり職員の行動を止めることなく連絡が可能となった。
- ・引継ぎでは、ケア通知のチャット機能を活用し情報の伝達から集約まで行うことが可能となり確実に行うことが可能となった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
137人	137人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変更なし	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
導入前研修に全職員が参加できるように勤務の調整を行い、5日間の勉強会の開催を行った。また、iPhoneを触り研修ができたことでイメージができスムーズなスタートがきれた。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ケア通知のメッセージ掲示板を使用して、職員間の引き継ぎを行っている。出勤時に前日の詳細や特記事項が分かるため助かっている。また、今日起きたこと等を掲示板に載せることで施設全体の状況が把握できるため情報の共有が今までよりも確実になった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>入居者の個別設定が可能になったことで事故件数は減っている。</p> <p>しかし、ケアコールの正しい確認方法ができず事故につながるケースもあるためLive映像を確認するように促している。また、ショートステイが30床あるため個別での設定が困難であり、全通知にしていることからコールに追われ確かな使用ができず振り回されてしまう現状がある。ショートステイに関しては、検討の余地があり今後の課題となっている。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 フジタ)

事業所名 (介護老人保健施設フジタ)

サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	a a m s (株式会社バイオシルバー社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	10セット	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

見守り支援システムについては2週間のデモ機使用時には1台のデモ機使用で「インカム」「感圧センサー」の使用もあつたため、モニタリング出来ていたが、10台購入後はセンサー5台に1台モニターの為中々使い慣れていないため、導入後の職員への取り扱い説明も思う様にはいかなかった。未だに使用が苦手な職員が多いため、今後は研修など行い、多くの職員に周知してもらう様に指導を行う予定である。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

・入所者様の「転倒・転落」の事故防止及び削減については感圧センサーを導入前は離床機能のみの効果では事故防止の効果はほぼなく、「ひやりはっと」などの提出が多くなった。

感圧センサー導入はごく最近のため、その効果については検証中であるが、職員が使い慣れ周知するまではその効果は得られないと考えられる。

・介護時間の「直接・短縮・間接」軽減効果についてもまだ感じられるのには時間がかかると思われる。

・入所者様の睡眠習慣・呼吸の体調変化についてはモニタリングをしていることで体調不良の早期発見が可能となった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員数：50名 常勤換算数：45.9名	介護職員数：50名 常勤換算数：44.0名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
人員体制についてはまだ効果は得られず、夜間帯の入所者様の良眠と呼吸/心拍数の把握に留まっている。	
②と③が異なる場合はその理由	
導入後、間もなく効果を得るにはもう少し時間を要する。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
現在見守りセンサーだけに留まっており、その効果も未だ不十分の為、より多くの職種・職員への取り扱い説明の研修を行い周知していき慣れて貰う事が大切である。他のセンサーと併用して活用している。現段階では人員削減には至っていない。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサーの効果がまだ見出しておらず、(使いこなす)職員の移動時間の削減には至ってウないのが現状である。ケア業務時間の負担軽減にはもう少し時間を要する。 ・見守りセンサーでのモニタリングにより夜間睡眠状態の把握に繋がっているため、それをもっと活用し、個別ケアにつなげていきたい。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサーが反応しない事が多い為、「転倒リスク」の可能性が上がってしまう。 ・今後も「見守りセンサー・ロボット」に対する「研修」は行うべきだと思われる。 ・センサーの使用方法等の意見を職員から定期的にモニタリングして改善に繋げたい。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人愛知慈恵会)
 事業所名 (一宮市萩の里特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	パラマウントベッド社製 エスパシアシリーズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	5台	令和4年2月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

主に立位不安定でありベッドから転落する危険性のあり、センサーマットを使用されているご利用者に対して、「エスパシアシリーズ」を活用しております。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

「エスパシアシリーズ」の導入活用により、ご利用者の離床タイミングを逃すことなく介助に入ることが出来るようになりました。
 また、「エスパシアシリーズ」ではご利用者の状態(起き上がり・端座位・離床等)に合わせてセンサー反応のタイミングを設定できるので、センサーマットでは発生しやすい誤作動も軽減し、特に夜間帯においてはご利用者への不必要な訪室を減らすことが出来ており、ご利用者並びに介護看護職員の心身負担が軽減されました。
 なお、この見守り支援ベッドを使用されているご利用者においては、現時点では転落事故等は発生しておりません。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人来光会)
 事業所名 (ケアハウスユーハウスいわと)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠りSCAN (パラマウント製)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月 1日	5台	令和3年 11月 26日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>昼夜逆転傾向の方、心不全の既往がある方、起き上がり時のリスクの高い方等、検討会議を行い、5名の方に設置。 日中、夜間ともに、眠りスキャンを確認 (ipad を持ち歩くこともあり) している。 前日の様子や1週間、2週間、1か月と呼吸状態、心拍状態を比較して、状態把握している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>昼夜逆転傾向の方の睡眠データを比較し、夜間不眠の日を予測することができ、重点的に前もって日中活動的に過ごしていただけるよう声掛けをすることで、夜間睡眠する日が増え、夜間不眠時に関わる時間が軽減した。 起き上がり時に転落、トイレ覚醒時に転倒の危険が高い方は、アラームで確認できるため、素早くお部屋にかけつけることができた。 高齢で心臓に疾患がある方は、自ら体調不良の訴えがなくても、データを確認して体調等の変化に早期発見に繋げることができる。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
10 : 1	10 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
導入後もかわらない。	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>転倒リスクの高い方への眠りスキヤンの設置により、1か月のデータを分析後、覚醒時間等を把握し、必要な時に必要なタイミングで訪室すること事で、訪室回数が減り、巡視の時間の業務効率が上がった。負担も減った。</p> <p>起き上がる前に覚醒の表示が出るため余裕をもって訪室に行けることで、転倒予防につながり、転倒時の対応の臨時業務が軽減された。</p>	
利用者のケアの質の向上や休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>昼夜逆転傾向である方に、日中の活動の声かけや対応をした結果が、データ化されることで、日中の活動の重要性が理解できた。そして、その方への声掛けの継続に繋がり、生活の質の向上となった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>昼夜逆転傾向の方の対応前と対応後のデータを可視化することで、職員の理解に繋がり、日中の活動の声掛け、対策の継続ができること。眠りスキヤンを設置していない方への対応にも気づきのきっかけとなり、日中の活動の重要性がすべての入所者様へのケア向上となれば、夜間の良質な睡眠、認知症の進行予防、眠前薬の軽減に期待できる。</p> <p>心臓疾患がある方への眠りスキヤンの設置をし、心拍数や呼吸数等の悪化したときのデータと通常のデータを把握することで、悪化する前の変化にきづき、早期の病院受診対応を行う。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人千寿会)
 事業所名 (ザ ストーリー東海)
 サービス種別 (地域密着型特別介護老人ホーム)

適用を受けた補助率		(3 / 4) ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		介護支援システム「ライブコネクト」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月24日	29セット	令和4年2月18日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>29部屋にライブコネクト一式を設置し、モニター、タブレット、スマートフォンを用いてあらゆる箇所で居室の状態をスタッフが把握できるようになっている。うち9部屋については、居室入居者の方に応じてアラートを発報させる設定を登録している。</p> <p><アラート登録内容></p> <p>7部屋：離床検知 18時30分～翌8時</p> <p>2部屋：離床検知 24時間</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p><総合満足度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの総合的な満足度としては非常に高く評価している ・84%が入居者の行動把握に伴う事故の防止や、睡眠や心拍などのバイタルデータの活用を評価している <p><業務負担軽減の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務負担の軽減としては、約76%のスタッフが負担軽減できると評価しており、訪室の頻度については、実際に頻度を減らしているケースも多々見受けられた <p><事故防止の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止の観点として、約65%のスタッフが事故やヒヤリハットが減った、もしくは減ると思うと評価している ・具体的には、過去導入したセンサーよりも反応が速く、迅速に対応することができたり、モニター画面の表示内容やアラートによって、入居者の異変やいつもと違う行動に気づくことができている 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤勤務帯に各ユニット1名ずつ職員を配置している。	夜勤勤務帯の職員配置を2ユニットに1名を見込んでいる。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
今の所、介護ロボット導入前の各ユニット1名ずつの配置のままになっている。	
②と③が異なる場合はその理由	
夜間、トイレなどで離床されるご利用者様が多く、2ユニット1名の配置では対応が難しい現状である。 また、1階、2階で特養が階をまたいでおり、センサーやコールが複数鳴った際の、駆け付け、対応が難しい。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを各居室に設置し、スマートフォン、タブレットが常に見られるような状態にすることにより、以下の取組みを実施している <ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視（訪室）回数を1時間に1回から3時間に1回に変更 ・夜間巡視時に、入居者の近くに行き入居者の状態を確認していたことにより1時間巡視に時間がかかっていたが、近くに行かず入居者の状態を確認する ・離床検知のアラートを設定し、必要な居室に必要な時に訪室することで不要な訪室を減らし効率的な介助が可能となる 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視時に、入居者の近くに行き入居者の状態を確認していたことにより、入居者の方を起こしてしまうケースがあったが、センサー情報を確認することで近くに行かずに居室入口付近から確認している ・睡眠状態（睡眠の深さ）を確認して眠りの浅い時に夜間オムツの取替えを実施する ・夜間の離床回数を確認することにより、就寝前にトイレにしっかり行くことを促す 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間巡視回数を1時間に1回から3時間に1回に変更することで、夜間業務の10%効率化 ・夜間巡視時に、入居者の近くに行かず入居者の状態を確認することで、巡視の時間が30分に短縮されること ・夜間巡視時に、入居者の近くに行かず入居者の状態を確認することで、入居者の方を起こさず、入居者の方の睡眠の質が向上すること ・睡眠状態（睡眠の深さ）を確認して眠りの浅い時に夜間オムツの取替えることで、スムーズな対応が可能となり、夜間の眠りの質を大きく犠牲にすることがなくなること ・夜間の離床回数を確認することにより、就寝前にトイレにしっかり行くことを促すことで、夜間離床回数（トイレ回数）を減らし睡眠の質を上げること ・離床検知のアラートを設定することで、不要な訪室を減らし効率的な介助が可能となること 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 祖父江愛照会)
 事業所名 (介護老人保健施設 ベストライフ祖父江)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	『ライフリズムナビ+Dr.』 (エコナビスタ)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月25日	100	令和4年2月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・通信の不具合があり、全利用者様の把握ができない。
- ・導入後、音声が入らない。

【介護ロボットの導入効果】
 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・転倒リスクの高い利用者様のベッドが通信できていない状態だった為、効果がよくわからない。
- ・呼吸、脈拍がわかるため、異常の発見はできる。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3:1	2.8:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
3:1	
②と③が異なる場合はその理由	
導入より期間も短い為、体制の変化には至っていない。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
体動などの通知があった場合、早めの対応ができる。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ、ハットの件数は少しずつ減ってきている。 ・夜間の訪室件数は減り、利用者様の体動、入眠状態が確認できる。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の排泄のタイミングがつかめないのが、今後は状態把握ができる。 ・全ての利用者様の脈拍、呼吸数が確認できるため、異常時の早期発見ができる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人社団喜峰会)
 事業所名 (ショートステイけやきが丘)
 サービス種別 (短期入所生活介護 (単独型))

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠り SCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月24日	40台	令和3年12月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

全利用者様に対して、眠り SCAN を使用し、眠りの状態や体動の有無を確認し、必要に応じて訪室するようにしている。

また、利用者様の状態によっては、起き上がったタイミングでアラームが鳴るように設定し、転倒転落の予防として使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

訪室のタイミングをはかることができているため、余分な訪室を減らすことができた。

夜間の訪室に関しても、睡眠状態などをみながら訪室することができたため、利用者様も起こすことなく、状態を確認することができている。

また、呼吸数などもモニタリングできるため、夜勤スタッフの精神的負担も軽減ができている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.9 : 1	2.3 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.0 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
導入しまだ4か月であるため、まだ変更はないが、今後上記のように体制を整えていきたい。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
呼吸数などをリアルタイムで確認できるため、巡視に係る時間を削減している。 夜間の状態は、自動的に記録されるため、記録に係る時間を削減できている。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
ご利用者様の睡眠パターンを確認することにより、睡眠を妨げずに状態確認をすることができている。 睡眠のパターンを可視化することにより、受診時に主治医へ現状を報告することができている。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
起き上がった状態などでアラームを鳴るようにし、転倒転落予防としても使用できるようにしていきたい。 夜勤スタッフの精神的・身体的負担を軽減することができると思われる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人 大雄会)
 事業所名 (老人保健施設 アウン)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	aams 介護セット (JC-19) B018-AAMSKS		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月21日	6台	令和4年2月21日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>aams6台を各入所フロアに設置(2階3台、3階2台、4階1台)。</p> <p>《対象ご利用者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り対応利用者 ・体調不良により、頻回な状態観察が必要な利用者 ・睡眠や覚醒状況の把握が必要な利用者 ・離床した事の把握が必要な利用者 <p>導入から現在までに、5名の利用者に適用。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り対象者への夜間帯における訪室回数が、3~4回から0回へ減少。 ・離床センサーを対象利用者の状態に合わせてアラームセットし対応。 ・夜間の排泄介助(オムツ交換)に対して介助拒否する利用者に対し、覚醒時間を把握する事で睡眠を妨げることが少なくなり、スムーズに介助出来るようになった。 ・呼吸状態を把握する事が出来、異常の早期発見や、対象利用者にとって適切なタイミングにて喀痰吸引等を実施する事が出来た。 ・訪室回数が減り常時生体状況が把握できた事で、職員の精神的身体的負担が軽減した。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1:1	0.75:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>・まだ、導入開始から現在までの運用期間が短い為、持っている機能をまだ使いこなせていない部分も多く、人員体制の変化までには至っていないと考える。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>・業者による使用方法についての説明会を2回開催。</p> <p>・説明会を受けたスタッフがフロアにて伝達。</p> <p>・フロア内で環境整備し受信機器設置。</p> <p>・対象者選定。</p> <p> 対象者別の取り組み</p> <p> 看取り対応の方（生体情報を把握）</p> <p> 体調不良の方（生体情報を把握）</p> <p> 睡眠・覚醒状況を把握する方（覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助）</p> <p> 離床を把握したい方（転落予防）</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>・生体情報を把握することで、他利用者への早期対応が可能になった。</p> <p>・訪室回数の軽減により身体的負担が軽減された。</p> <p>・状態変化の把握ができることで職員の精神的負担が軽減された。</p> <p>・睡眠や覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し安眠につながった。</p> <p>・覚醒状態を把握することでスムーズに介入できた。</p> <p>・転落予防にて使用し、転落はなかった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>・利用者の生体情報および離床センサー情報、覚醒状況の情報の共有により入所フロア全体でのスタッフの協力体制の確立が期待できる。</p> <p>・訪室回数の軽減により、職員の休憩時間の確保ができる。</p> <p>・状態変化の把握ができることにより、職員の更なる精神的負担・身体的負担の軽減が期待される。</p> <p>・覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し睡眠を妨げることがない為生活の質が向上する。</p> <p>・入所者の睡眠のリズムが把握でき日中のケアのアプローチができる。</p>	

別添1. (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人慈雲福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホームウエルコートみづほ)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			・	1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名				
見守り支援	次世代予測型見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)				
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間		
令和4年3月23日	10台	令和4年3月23日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

ベッド位置が確認できる壁に設置。

入所者の身体状況に合わせ、起き上がり・端座位・離床・入室・退室などそれぞれ必要なサインを確認できるように設定。専用のタブレットで夜間も含み終日業務を行う。

夜間の巡回を減らし、必要時は端末上で室内の状況を確認。

事故発生時などアクシデントが起きた際は、報告書作成時に録画された状況を確認し、要因分析する。対策が本人目線で行え、能力や動線・行動把握に役立ち、環境整備を行うことに活用していく。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

導入して間もないが入所者の行動が端末で確認できる。

無駄な訪室を減らし、タブレットにて状態を確認することができる。

これにより入所者の睡眠の質の向上、夜間介護従事者の巡回回数軽減につながる。

事故発生時の状況を録画データチェックを行うことで、リアルな要因分析が可能となりうる。

入所者の目線・動線で行動を把握し、個々に合わせた環境整備や必要に応じて昼間の活動の見直しやリハビリの検討が行いやすいと考える。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3:1	3:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.8:1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>導入して間もないため人員配置に変更はないが、業務に関する削減が見込まれる 記録システムとの連動により記録時間の削減 入所者の行動把握が手元の端末でできるため他業務との連携しやすくなり、看護も共有することで連携が強化される</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>記録システムとの連動により記録時間の削減 入所者の行動把握が手元の端末でできるため他業務との連携しやすくなり、看護も共有することで連携が強化される</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>起き上がり、端座位、離床、入退室等見守り支援を行うことにより、不必要な訪室の削減、事故のリスク軽減、事故時の動画でのデータ分析（要因分析）で、よりよい状況に合わせたケアの実現を可能にする。 利用者本来の能力の把握・原因対策・立案を行い、利用者の睡眠状況が改善することで、特に夜間介護従事者の業務負担軽減を目標とする。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>身体状況、認知状況に合わせたサイン対応による転落、転倒事故のリスク軽減。 事故発生時の状況をデータチェックすることで事故要因を把握し、家族への説明時にも活用し安心へとつなげる。 不必要な訪室削減により入所者の睡眠状態を改善。他見守り支援ロボットで睡眠状態をデータ分析し、記録システムと連携することで夜間巡回業務における肉体的・精神的負担を軽減でき、職員の精神的に安心につながる</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人永熊会)

事業所名 (特別養護老人ホームきらめきみよし)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	③ / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	眠り SCAN /		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月9日	10 /	令和4年3月9日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

眠り SCAN10 台を必要な利用者に対し使用をしている。

夜間帯を中心に、利用者の睡眠・呼吸・心拍状態の把握を行い、適したタイミングでケアの介入を行っている。

利用者ごとの記録をスタッフ間で共有している。

状態の不安定な利用者、入所間もない利用者を中心に夜間の睡眠習慣の把握のため使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

夜間の訪室時間の削減につながっている

利用者の睡眠状態に合わせてのケアが可能となっている

ステーションにてリアルタイムに状態把握ができるため、スタッフの精神的負担軽減につながっている。

利用者の夜間の排泄のタイミングや、離床しているタイミングが記録として残るため、予測が立てやすく、タイムリーなケアができています。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1 2名	1 2名（夜勤者人数変わらない為）
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1 2名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けるようにしている。 ・通知機能を活用し、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視（現状2時間に1回）」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進している。 ・余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図っている 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC, モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 尾張健友福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム・ちあき)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	見守りセンサー「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月11日	2台	令和4年1月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・既設の施設内無線通信設備のもとで、介護記録システム(モバイル端末及びノートパソコン)と「見守りセンサー」が接続し、入所者の状態を感知した情報を、職員が迅速に把握できるように環境整備が進んでいる。
- ・入所者において、身体状態が悪くベッドからの立ち上がりの際に転倒の恐れが大きい方や、不穏状態が多い方など、職員が特に重点的に見守りを行なう必要がある方について、居室ベッドのマットレス下に「見守りセンサー」を設置している。
- ・入所者のベッド上の状態(体動・呼吸・心拍)を、見守りセンサーで感知し、離床の動きがあればセンサーが感知し、モバイル端末(スマートフォン)及びノートパソコンに通知され、職員が迅速に居室訪問し状況確認している。
- ・居室での夜間就寝中での覚醒・睡眠リズムを、介護記録システムにおいて時系列で記録し、介護職員・看護職員により閲覧し、日中を含めた生活リズムの把握やケアの成果・対策を検討する材料としている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- 1) 介護時間の短縮・・・全体として短縮できていない。見守りセンサーを設置した入所者への定時的な訪室回数を減らしていない。他の入所者への訪室も同様に定時的に行っている。
- 2) 直接の軽減効果・・・入所者の転倒転落の恐れがある動作を、職員が迅速に知ることができ、そして入所者の外傷を防ぐ対応ができていて、ケガ発生時の処置に要する労力・時間を省くことに繋がっていると言える。
- 3) 間接の軽減効果・・・睡眠中の情報の蓄積から生活リズムの分析へ活用し、排泄時間、就寝時間、起床時間などの対応を見直すことに繋がっている。
- 4) 介護職員の満足度等・・・夜勤の介護職員においては、入所者の離床・不穏行動など異常を知らせるアラームが鳴った場合に、迅速に対応できることで、安全性、安心感が高まり、心理的負担を軽減できている。
- 5) 利用者の満足度等・・・入所者の転倒転落事故を防ぎ、健康な生活の維持へつながっている。緊急コール(ナースコール)のボタンを押せない入所者にとって、トイレ介助の依頼時や不安・不穏の時に、声を上げなくてもよく、見守りセンサーを介して職員を呼ぶ(職員が駆けつける)ことができる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員配置必要数（入所者対比）1.95：1	介護職員配置必要数（入所者対比）1.90：1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員配置必要数（入所者対比）1.95：1（①と同じ）	
②と③が異なる場合はその理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、少しでも体調のよくない入所者があれば、繰り返しの体温の検温や、丁寧な見守りが必要になっている。全体として訪室を減らす判断ができていない。 ・入所者の対応の都度に手指消毒や、トイレ介助時の防護衣の着用、環境消毒など、手間も増えている。 	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「見守りセンサー」で感知した情報（アラーム）に介護職員が迅速に対応するように努めている。タイミング遅れることなく訪室するようにし、入所者の転倒転落など外傷を防ぐように努めることで、ケガ発生時の処置に要する労力・時間を省けていると言える。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の呼吸数・心拍数などの変化のデータが自動的に収集されるため、介護職員がそれを体調確認の材料にしている。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにも重要。体温の検温は直接測る必要があり、省けない。 ・入所者の状態の情報蓄積から生活リズムの分析へ活用している。排泄時間、就寝時間、起床時間などの対応を見直すことに繋がっている。 ・職員同士で入所者の客観的な情報を共有しやすくすることに役立っている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサーをできるだけ多くの入所者へ活用し、生活リズム（覚醒や起床、排泄など）や、行動パターンを把握することで、介護業務をより効率化していくこと。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人寿宝会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム一晃)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月29日	30台 /	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・日中傾眠傾向の方、夜間浅眠の方
- ・新規入所の方で生活リズムの把握をしたい方
- ・自らの訴えが難しい方 (ナースコール等の使用が困難な方)
- ・看取り期の方

睡眠状態の確認をし、巡視や夜間排泄のタイミングを検討している。
 睡眠状況から起床、就寝時間の見直し、日中のアプローチを行う。
 状態の悪い方、看取りの方については呼吸や心拍の確認を行い、状態の把握に努めている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・夜間の巡視、排泄のタイミングを覚醒時に行うことで、不必要に起こしてしまうことが減り、結果的に介護量を減らすことができる。
- ・就寝、起床のタイミングを知り、その方のリズムに合わせることで、必要以上に就寝や起床を促すことがなくなっている。
- ・看取り期の方の状態確認ができ、職員の不安感の減少が図れている。
ご家族への連絡や状況を説明しやすくなっている。
- ・カンファレンスや事故対策を多角的に考えられる。
- ・ベッドから離れていることがわかり、事故の早期発見につながる。
- ・ご自分で夜間トイレに行かれる方の排泄のタイミングが把握でき、必要に応じてピンポイントで見守りが可能になる。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 5 : 1 (利用者 : 介護職員)	2. 6 : 1 (利用者 : 介護職員)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2. 7 : 1 (利用者 : 介護職員)	
②と③が異なる場合はその理由	
異動、退職等があり当初の予定より介護職員の配置が少なかった月があったため。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・従来型特養であるため、入居者様の生活単位（1フロア）が35名前後となっている。スタッフルームや食堂から遠い居室をご利用されている方の居室内での様子の把握が困難なため、定時の巡視や排泄介助以外に訪室の必要がある方やご自分では訴えが困難な方については、眠りSCANの設置を行うことで、利用者の状態や状況に応じて、職員の訪室（巡視・排泄介助）を行うことができる。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の生活リズムの把握を行い、適切なタイミングでの対応をすることで、必要以上に起床や就寝を促すことがなくなり、利用者の方の協力も得やすくなるため、介護にかかる時間の短縮を図る ・ベッド上での様子を可視化することで、適切なタイミングでの介助につなげることができ、ベッドからの転倒、転落事故の減少を図る。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り業務の効率化により、巡視等にかかる時間の短縮が見込まれ、その他の業務への取組が行いやすくなる。 ・入居者様にとって適切なタイミングでの対応ができることで、入居者様の満足感も得られる。またそれにともない、入居者様の介護に対する協力が得やすくなる。介護に対する拒否が少なくなることで、職員の精神的なストレスが軽減でき、介護にかかる時間も短縮できる。 ・事故の減少により入居者様、ご家族、職員の精神的、身体的な負担軽減できる。 ・夜間帯の時間のゆとりは精神的なゆとりにつながり、ミスやストレスの軽減につながる。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人さくら福祉事業会)
 事業所名 (特別養護老人ホームさくらレジデンス)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	見守り支援システム「眠り SCAN」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	24 /	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】
 認知症を含む疾患により転倒及び転倒リスクの高い方
 ・ 終末期により、常時観察が必要となった方
 ・ 新規入所等で睡眠リズムが把握できない方などを中心に運用を開始
 入所者のケアプラン立案の参考の一つとして、眠り SCAN から得られた睡眠データを活用している

【介護ロボットの導入効果】
 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 利用者の睡眠リズムを把握することで、入眠への促し方、睡眠が浅い方には日中の活動強度を高める支援を検討するようになった
 終末期の方など常時監視が必要な方でも呼吸や心拍数をリアルタイムに確認することができるため、職員に安心感を与えることができた。
 ベッド上での覚醒時でもアラートを設定できるため、転倒や転落リスクが高い方には非常に効果が高く、リスクマネジメントに有効であった

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
1 時間に 1 回行っていた巡視を、2～3 時間に 1 回に減らすことができた。(モニターでの安否確認は 1 時間に 1 回)	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
特に夜間では、介護ロボットで睡眠状況を確認できるため無駄に利用者が起こされることがなくなりました。夜間帯で、休憩中でもステーション内のモニターで利用者の安否が確認できるため、職員の負担は軽減された。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
全ベッドに標準装備できると、さらに利用者全員の安否確認がこまめにでき夜間帯でのバイタルの変化や利用者の異常に早く気が付くことができる。 また、巡視をゼロにできるようにしていきたい	

別添1—(介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
介護施設見守り	エスパシア (パラマウントベッド(株)製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	2	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>認知症の有無にかかわらず、転倒リスクの高い方を主に使用している。 利用者の動作傾向やスピードにより、個々に設定を変え利用者が転倒する前に職員が対応できるようにしている</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 利用者ごとに設定を変えることで、利用者の行動を制限せず対応することができるため ベッドからの転倒や転落が起りにくくなっている 利用者の離床状況がインカムで早く知ることができるため、ベッドからの転落のアクシデントが 以前より減っている</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
職員配置が薄いフロア及び認知症専門棟を重点的に、介護ロボットを導入した。 インカムを活用し、職員同士の連携がスムーズにとれるようになったため離床アラートがインカムに入電した際も職員同士で連絡を取り合い効率的な動きができるようにした	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
離床前に、アラートが鳴りインカムでの連携を図りいち早く利用者のもとへ駆けつけることでベッドからの転落が減った。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
ベッドからの転落のゼロを目指す。 介護ロボットのベッドに変更したことで、足元に設置していたセンサーを減らすことができ、他に必要な利用者にセンサーを使用できるようになった。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	見守り支援システム「眠り SCAN」 ✓		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月23日	30 ✓	令和3年10月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

認知症を含む疾患により転倒及び転倒リスクの高い方

- ・ 終末期により、常時観察が必要となった方
- ・ 新規入所等で睡眠リズムが把握できない方などを中心に運用を開始

入所者のケアプラン立案の参考の一つとして、眠り SCAN から得られた睡眠データを活用している

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

利用者の睡眠リズムを把握することで、入眠への促し方、睡眠が浅い方には日中の活動強度を高める支援を検討するようになった

終末期の方など常時監視が必要な方でも呼吸や心拍数をリアルタイムに確認することができるため、職員に安心感を与えることができた。

ベッド上での覚醒時でもアラートを設定できるため、転倒や転落リスクが高い方には非常に効果が高く、リスクマネジメントに有効であった

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
見守り巡回を行う職員 3名	
②と③が異なる場合はその理由	
ICT 機器を完全に信用して巡回職員を減らすことが難しかった	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
職員配置が薄いフロア及び認知症専門棟を重点的に、介護ロボットを導入した。 職員配置が薄いフロアの利用者の状況を遠隔で別フロアにて監視することができるため、職員が不在の場合でも、利用者の安否確認ができるようになった	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
特に夜間では、介護ロボットで睡眠状況を確認できるため無駄に利用者が起こされることがなくなりました。夜間帯で、ペアの職員が休憩中でもステーション内のモニターで利用者の安否を確認できるため、職員の負担は軽減され、また巡視の回数は変わらないが利用者の状況を確認するタイミングは増えた。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
全ベッドに標準装備できると、さらに利用者全員の安否確認がこまめにでき夜間帯でのバイタルの変化や利用者の異常に早く気が付くことができる。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 愛知県厚生事業団)
 事業所名 (愛厚ホーム西尾苑)
 サービス種別 (特別養護老人ホーム)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		テルサコール (株式会社モルテン)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月5日	1	令和3年11月5日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>ベッドからの転落を防ぐためテルサコールを使用している。 テルサコール作動時は速やかに訪室する。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜間、介護職員が1人の時、入居者がベッドから起きようとする時テルサコールが作動し、速やかに訪室し対応できている。</p>			

(注)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人社団同仁会)

事業所名 (ショートステイファミリーエ)

サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	aams (アアムス)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月11日	10台	令和4年3月11日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

毎日、継続使用中。

利用者様に合わせて、臥床時のみ使用または終日使用に分けています。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

就寝中、見守りセンサーが反応し始めるとトイレの把握や転倒予防になり事故を未然に防ぐ事が出来ています。

ご自分で寝返りや動く事が出来ない方は起きていてもセンサーが反応しない為、睡眠状態の確認は出来ませんが、心拍数など低下した時にアラームが鳴るので早期の対応が可能となっています。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人春岡会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム丹陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCAN」 パラマウントベッド(株)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月21日	40台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「睡眠調査」「安全調査」「看取り対応」の3つの調査をすることを使用の原則とし運用基準を作成する。 ・基本、1利用者につき、1か月間「眠りスキャン」を設置し、データ収集を行い、睡眠状況・夜間の活動状況・排泄パターン等、収集したデータを分析して、オムツ交換のタイミング及び回数の調整・就寝時間の調整を行っている。 ・転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定して、転倒リスク軽減を図っている。 ・看取り期の利用者にもアラームを設定し、早期対応ができるようにしている。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の睡眠状況がデータとして見える化されたため、より具体的な対策が打てるようになった。 ・利用者様も熟睡している時にオムツ交換をすることがなくなったため、起こされることなく、よく寝れていると評価あり。 ・転倒リスクが高い利用者様にアラームを設定しているため、人が少ない夜間帯での転倒事故が減った。 ・転倒リスクの高い利用者と看取り期の利用者の対応は、介護職員の精神的な負担が大きいですが、「眠りスキャン」を導入したことで、画面上で、現状が把握できたり、いざという時にアラームで知らせてくれるので、負担が軽減された。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1. 9 : 1	2. 1 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2. 1 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニット5台ずつ設置 ・巡視時間の短縮 部屋に訪れることなく、眠りスキャンの画面確認にて巡視完了としたことで効率化を図った。 ・眠りスキャンのデータ分析により、睡眠重視の対応へ変更し、パットの変更で排泄交換をなしできた利用者が平均2名おり、排泄交換時間の短縮となった。 ・転倒リスクの高い利用者には、1時間に1回以上の状況確認をおこなっていたが、眠りスキャン導入後、アラーム対応することで、通常の2時間おきの巡視+アラームが鳴った時のみの対応となり時間短縮することができた。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の状況を分析し、寝れていない利用者様には、日中活動の活性化や睡眠導入剤等を調整し、睡眠時間を確保することができた。 ・部屋に入ってきてほしくないという利用者様に眠りスキャンを設置し、訪室による巡視をなくしたため、利用者様は安心して寝ることができた ・以前は転倒高リスク者・看取りの方への対応が不安などでしっかり休憩が取れなかったが眠りスキャンを導入し、ケア内容の改善及び安心感により、休憩時間がしっかり確保出来るようになった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・全利用者の睡眠状況等の把握をすることによって、より利用者にあった対応が可能となる。 ・眠りスキャンを導入したことで、データ分析の重要性を再認識することができた。これを機に、眠り以外でもデータを収集、分析をして、対策をとり、より良い介護を実践していくが期待できる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 成仁会)

事業所名 (特別養護老人ホーム メドック東浦)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	眠りSCAN (パラマウントベッド社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月31日	110台	令和4年3月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>特別養護老人ホーム120床に導入。(事前に導入していた10台に追加で今回110台導入) 全ての居室ベッドに眠りスキャン設置。 3月26日、4月12日に業者からの説明会実施。 現在、導入間もないこともあり全体的な活用よりも限定的な使用状況の中で運用開始している。 まずは、全職員に対して眠りスキャンへの理解、周知を進めていく段階ではあるが、一部の方に対してアラーム設定を活用したサポートや看取りの方の状態確認など具体的に活用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りの方の状態確認 看取りの方の状態確認として特に夜間はこまめな巡視を行っていたが、眠りスキャンを導入することで、呼吸数や心拍数などほぼリアルタイムに具体的な数値が可視化され状態確認がしやすくなった。 ・睡眠リズムの確認 特に夜間など居室で臥床されてからの睡眠状況がデータとして残るため、ご利用者ごとに設けている臥床時間の様子が客観的に分かるようになった。 ・アラーム設定 覚醒や離床などアラームを鳴らすタイミングなどの設定ができることで、効率よく様子の確認やご利用者へのサポートに入ることができる。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
日中において2ユニットで5.2～6.0	日中において2ユニットで4.6～5.0
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
日中において2ユニットで5.2～6.0	
②と③が異なる場合はその理由	
導入後間もなく体制への反映に至っていない。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad による介護記録入力の効率化 ・ 勤怠、コミュニケーションシステムの導入による勤怠確定や情報共有の効率化 ・ フロアごとの携帯電話支給による円滑な連絡方法の拡充 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 看取りの方の状態確認として特に夜間は1時間ごとの巡視を行っていたが、眠りスキャンで呼吸数や心拍数の確認をすることで1時間ごとの訪室に頼らない状態確認が行えるようになった。 ・ 睡眠状況がデータとして残るため、過去の睡眠傾向を探ることで日中の臥床時間などが適正かどうかの判断や見直しがしやすくなるため、ご利用者の生活リズム改善に繋がる。 ・ アラームの設定や睡眠状況が分かることで、これまで細かな訪室により目視で確認していた本人様の睡眠状況や状態確認について適正な訪室回数の見直しなどによるご利用者様の睡眠時間の確保や職員の過度な訪室回数を軽減することで業務効率に繋がる。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の睡眠パターンや呼吸数、心拍数が分かってくることで巡視などの訪室も目視が必要なのか眠りスキャン上の確認で問題ないのかが整理できるようになり、効率よくご利用者の確認ができることで必要以上にご利用者の居室へ訪室することがなくなることでプライベート空間・時間を確保することに繋がることや職員の業務効率にも繋がるのが期待できる。 ・ 睡眠データの蓄積による睡眠パターンの傾向が探りやすくなるため、現状の臥床時間やタイミングが本人様のリズムと一致しているのかも判断しやすくなり、臥床時間の見直しなど、ご利用者の生活リズムを整えることに繋げることや夜間の睡眠の質を高めることで日中の活動に繋がる可能性がある。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 百陽会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム アルクオーレ岡崎大平)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		DreamCare リスクマネジメント&介護支援システム (見守りシステム)	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	20 /	令和3年12月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】 現在2ユニット(20床)で稼働中。タブレットで、各居室内の入居者活動状況(活動量、呼吸、脈拍)を確認している。 スクリーンショットもできるので、状況がよりリアルに確認できている。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 訪室しなくても入居者の状態を確認できる為、体方面、精神面の負担が軽減できている。 夜間も部屋に行かなくても状態を確認できる為、入居者の安眠にも繋がっている。 24時間画像記録されているので、居室内で発生した転倒、転落等の状況確認が画像により確認できる為、リスクマネジメントに活用できる。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導
-----------------	------------------------

	入後に見込む介護職員等の人員体制
入居者、職員対比 2.3対1	入居者、職員対比 2.5対1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護ロボットを導入することにより、業務改善を行い、効率化を図り、労働時間を圧縮を目指す。 入居者、職員対比 2.5対1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守りセンサーを導入することによって、巡回の回数を減らし、その分の労働時間（約40分）を他のケアに提供する。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
居室内での活動や状況を把握することで、リスクマネジメントに繋げる。具体的には、歩行能力を把握し、居室内のトイレまでの動線を確認し、自身で安全にトイレまで行けるように環境整備を行った。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
活動数値を個人に合わせて、一人一人の活動を把握することにより、アラート機能を活用し、事故予防に繋げる。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人東加茂福祉会)
 事業所名 (石野の里ショートステイセンター)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	テルサコール		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月2日	10台	令和3年11月2日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>・比較的身の回りのことは行えている転倒リスクの高い方や軽介助の必要なショートステイ利用者様へ導入中。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>・認知機能の低下によりナースコールが押せない利用者様も多く、転倒リスクのある方の動き出しを訪室しなくても把握できることにより、必要なタイミングをみて介護介入が行えるため、利用者様のプライバシーへの配慮が行えつつ、介護事故予防にとっても役立っている。</p> <p>・夜間気にかけて、頻回に訪室しなくても巡視とナースコール時の対応で済むので職員の精神的負担軽減に役立っている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (ミソノピア株式会社)

事業所名 (ミソノピア)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りロボット	眠り SCAN パラマウントベッド		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月 31日	5	令和4年3月 4日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・認知症の方で、夜間転倒のリスクの高い方
 - ・新規ご入居の方(しばらくの間、睡眠状態・生活リズムの把握等)
- 主に、上記の方を対象に使用し、分析しております。

【介護ロボットの導入効果】

- (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
- ・夜間帯は職員数が少ない為、モニターでの確認で状態が分るようになり、職員の定期巡回以外のセンサー対応が減り動作負担の軽減と、精神的な不安軽減に繋がっている。
 - ・新規ご入居の方の夜間帯の睡眠傾向、排泄パターンなど居室での生活パターンが分かり、慣れないお部屋でのご本人の生活リズムが分かり、職員のその方に合うサービス提供内容がスムーズに把握できる。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.5 : 1	2.2 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.28 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
実際の職員配置数が、4月30日付けで③の人数である為	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>①見守りセンサー導入により、夜間帯のご様子確認に介護スタッフが細やかにデータ把握をすることで、宿直看護師への状態確認の連絡回数を減らした</p> <p>②モニターによる状況確認が実施できることで、定時巡回以外のセンサーコール対応が減り、夜間帯の少人数職員の休憩時間の確実な確保に繋がった</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・新規ご入居の方の夜間帯の生活リズムをスムーズに把握することで、ご本人の不安を減らし、その方の生活リズムに合わせたお声掛け、介護へと質を上げられる 不眠の傾向がある日には、日中の生活をすぐに振り返り、翌日以降のケアに繋げる ・定時の夜間職員の休憩の確保により、業務に対する身体的負荷の軽減へと繋げる 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・導入後、まだ1カ月の時間なので、今後、更に状況を細やかにデータを活用し把握することで、ご入居の方の生活を感じ、先に先に対応していく介護の実現が可能である ・改善が明確になるので、導入台数も今後は増やし、広く活用していく事が可能である 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人緑生福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム南生苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り scan、眠り scanEYE		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年 3月25日	20台 /	令和4年3月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

令和4年3月25日に、各フロアに5台ずつ配置し、次の方に対して運用を開始する。

- ・認知症等により転倒及び転落のリスクの高い方
- ・夜間不眠、日中傾眠のみられる方の睡眠リズムの把握
- ・看取り介護等で常時観察を必要としている方

現状は、睡眠、心拍、呼吸状態の観察とデータ収集を中心とし、アラート機能は使用していない。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

導入して1ヶ月しか経過していないが、

- ・夜間帯の睡眠リズムをデータとして把握できることにより、不眠状態にあった方々の状況がより明確になり、日中の活動強化、排泄などの夜間ケアのタイミング等を検討しやすくなった
- ・常時観察が必要な方々の状態が分かりやすくなったことで職員の安心感につながっている。
- ・使用者の状態や状況が分かりやすくなったため、リスクマネジメント意識が高まり、それが安心感につながっている。また、見守りカメラを使用することで状況がより把握しやすくなり、ヒヤリハットの早期発見など、必要時にケアを提供することができ、職員の負担軽減、事故防止に役立っている。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.2:1 (夜勤職員 5名体制)	2.3:1 (夜勤職員 5名体制) (※効率化分は主にケアの向上へつなげる)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.3:1 (夜勤職員 5名体制)	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠データ、バイタルデータ等の見守り機能アプリの見方を職員間で学習し、効率の良くケアの提供ができるように職員間で情報共有している。 ・カメラ機能の有効な活用方法を職員間で情報共有している。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のより正確な状況把握のため、睡眠データ、バイタルデータ等を活用している。 ・夜間の職員の負担軽減のため、転倒リスクの高い方について、訪室せずに見守りカメラにて確認している。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・収集データをもとに個別ケアを充実させる。 ・体調悪化等の早期発見につなげる。 ・転倒等の事故の防止や軽減につなげる。 ・職員の安心感や業務の効率化、身体的・精神的負担の軽減につなげる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社ミズノ)

事業所名 (ひだまりの郷たけとよ)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		パラマウントベッド株式会社 眠りスキャン	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月7日	5台	令和3年12月7日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日5台稼働中。 ・特定の入所者だけではなく全体的に実施した。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠導入剤の効果を数値的な把握ができ医療機関に作用が適量化に繋がっている 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ② 遅番 ~21時。早番 7時~	① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 遅番,早番の時間短縮。20時~7時30分まで1名対応。
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
② 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ③ 遅番 ~21時。早番 7時~	
③ と③が異なる場合はその理由	
・センサーのタイムラグやコールが頻回に鳴るなどあり、実際に職員で動くことでシュミレーションやコールの制御など行ったが業務に反映するまでには至らなかった。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
・パラマウントベッドの担当者様をお呼びしての勉強会の実施。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
・看取り期においてはある程度の効果があるケースがあった。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
・当施設は西館定員15名と東館15名と分かれており、片方の館15名分追加することで効果がみられるか検討している。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社マザーズ)

事業所名 (グループホーム円頓寺(本館))

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月28日	18台	令和4年1月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>利用者様の各居室(18室)に眠り SCAN とカメラを設置し、居室の見守りとして活用中。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜勤者の訪室回数の軽減、覚醒時の素早いトイレ介助など負担軽減となったと介護者から好評です。</p> <p>睡眠の質や心拍数などをデータで把握でき、データ提示により医師との連携が密になり、医師からも処方にも有効との評価をいただいている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2020年度平均月間労働時間 2200時間	平均月間労働時間を100時間削減し、2100時間を目標とする
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
職員の人員体制に変更はないが、休憩の取りやすさや、残業の削減に有効	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。 ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人青山里会)
 事業所名 (びわじま介護センター)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援システム	見守り介護ロボット「a a m s」 (株)バイオシルバー社製		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月8日	3 4	令和3年12月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- 当該機器については、常に対象利用者のベッド(マットレスの下)に設置して、対象利用者の状況を確認できる状態としている。対象利用者の睡眠状況、心拍数、呼吸数は、PCやタブレットにて確認しており、対象者の状態に変化があれば各機器よりアラート音が鳴動する設定としている。
- 夜間などの臥床中は、タブレットより設定操作を行っているが、対象者の心身状況や日常生活動作レベルや対象者に起こりうる事故リスク等の特性に合わせて、離床時、覚醒時等に、アラート音を鳴動させる設定を行っている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- 巡回時の訪室の際に、ご利用者を覚醒させてしまい、その後当該利用者に対する対応が必要となることがあったが、介護ロボットを導入したことにより、睡眠の状況をタイムリーに確認することができるため、設置対象利用者には必要な時に適切に巡回を行うことが可能となった。そのことで、覚醒した利用者への対応時間が減少したということでは介護負担の軽減の効果があったと言える。
- 離床時、覚醒時、バイタル異常時等、設置対象者の心身状況、生活行動リズム、それに伴うリスクに合わせたアラート鳴動設定を行えるため、利用者にとっては今までより安心・安全な生活環境の提供に繋がっている。

また、転倒リスクが高い利用者に対しては、離床時ではなく、覚醒時にアラート音を鳴動させる等の早めの設定を行うことで、転倒事故の回避が高い確率で行えるようになった。

- 設置台数が各ユニットに1台ずつという状況であるため、飛躍的に介護時間が軽減した、介護負担が軽減した、介護従事者の満足度が向上したという状況には、未だ至っていない。介護ロボットの設置台数の増加、介護ロボットから取得した睡眠データやバイタルデータを活かしたケアの方法の在り方を見出すことで、将来的には、利用者の生活を維持、向上させつつ、介護時間の短縮、介護負担の軽減を図ることは可能と思われる。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添-1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 成祥福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホームこすも)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	エスパシアシリーズ(パラマウントベッド株式会社)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月30日	100台	令和4年3月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間帯を中心に入居者が居室で臥床している際にその動き(起き上がり、端坐位、離床、見守り)を把握できるように使用している。また、日常の生活において、職員の見守り業務の心理的負担の軽減と業務の効率化を図る為に使用している。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の動作に合わせたセンサー設定が可能な為、起き上がりなどの適切なタイミングでナースコールの通知が鳴り、駆けつける事ができる。導入して日が浅いが転倒転落予防の効果を感じる。 ・従来は、センサーマットを使用していた為、足元にマットがある状態であった。見守り機能付きベッドにすることでマットは不要になり、入居者が足元を気にすることが無くなった。 ・従来のセンサーマットより、優れた機能を持つ見守り介護ロボットを設置し、適切なタイミングでコールが鳴る為職員の心理的負担の軽減に繋がっている。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人なごや福祉施設協会)
 事業所名 (特別養護老人ホームなごやかハウス希望ヶ丘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	aams 介護セット B018-AAMSKS		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	5セット	令和4年1月17日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・全身状態の悪い方の心拍の確認を中心に使用している。5セットとも稼働させている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・看取りのご利用者の呼吸停止時に速やかに訪室でき、早期発見に役立った。
- ・睡眠状態(眠りが浅くて体動がある、熟睡している)が把握しやすい。
- ・呼吸や心拍の状態が悪い時などの効果的な訪室が可能になった。
- ・ご利用者についての看護、介護職種間の情報共有の機会が増えた。
- ・上記のことから、スタッフとしては導入してよかったという感想が多い。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社豊田ほっとかん)

事業所名 (有料老人ホーム豊田ほっとかん)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り介護ロボット aams/アアムス	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月17日	3	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>日中では介護フロアにあるベッドに設置し使用している。 身体状況が不安定な利用者に対し活用し、睡眠時の心拍、呼吸、睡眠の質等をパソコン及びタブレット端末にて見守り、異常があれば駆けつけ対応を行う。</p> <p>夜間では(18時～翌7時)の時間帯で使用している。 認知症にてトイレの場所がわからない入居者や、歩行不安定のため転倒リスクが高い入居者のベッドに設置し、パソコン及びタブレット端末で睡眠の状況を確認する。ナースコールシステムと連動させて、利用者のバイタル反応の異変があった場合や利用者の離床状況を把握している。センサーが発報した場合に部屋を訪問し、確認をする。</p> <p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>ベッド上での「深い睡眠、浅い睡眠、覚醒、離床」が分かるので、スタッフの少ない夜間でも、利用者の状況に合わせた介護できる。覚醒や浅い睡眠の時に介護することで、入居者の睡眠の妨げにならないようにしている。</p> <p>職員の精神的負担が軽減され、効率的な業務になっている。ご家族への報告や、職員間での情報共有に役立っている。サービスの改善や体調変化の気づきになっている。</p> <p>看取りの利用者に対する活用では、心拍数や呼吸数を把握できる機能などを活用し、利用者の状態を把握できる。看取りの利用者の状態を把握することで、職員の精神的な安心感や、夜勤者の心の持ち方に良い影響がある。</p>			

(注)

・ 導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

<p>① 従前の介護職員等の人員体制</p>	<p>② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制</p>
<p>日中；11名 夜間（本館）；2名 ※介護士及び看護師の人員、土日の日中は1名減</p>	<p>日中；10名 夜間（本館）；2名</p>
<p>③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制</p>	
<p>日中；10名 夜間（本館）；2名</p>	
<p>②と③が異なる場合はその理由</p>	
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p>	
<p>・見守りセンサーの見守り状況をタブレット端末でも把握できるようにすることで、職員がPCに向かう必要が無く、移動しながらでも見守り状況を確認することが出来るため、より流動的な職員配置が可能となった。</p>	
<p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p>	
<p>・身体状況が不安定な方に関しては夜間に限らず日中も見守りセンサーを活用し、呼吸状況や心拍等を把握しつつ業務にあたった。 それにより、利用者へのより適切なケア及び職員の不安感軽減を図ることが出来た。</p>	
<p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p>	
<p>これらの取組により、利用者への適切なケア及び緊急時の迅速な対応、職員の身体的、心理的負担の軽減が出来ている。 弊社本館において活用している見守り介護ロボットは、今回導入の3台のみとなっているため、今後導入台数を増やしていくことで更に業務の効率化等が期待できる。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人勅使会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム第二勅使苑)
 サービス種別 (指定介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	高齢者見守りシステム 見守りライフ /		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月2日	3	令和3年12月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・令和元年度に今回購入した同じものを6台導入しており使用していましたが、見守りが必要な方が増加しており、6台では不足しており3台追加で導入する運びとなりました。使用に関しては、必要になっている方をピックアップ、もしくは各入居者の担当が選出する形として、検討会を行い導入しています。現在、前回導入分と今回導入分を合わせた9台すべて使用しています。
- ・使用中の入居者に対し、継続して見守りライフが必要かどうか定期的に話し合い再検討を行うことで適切な活用ができるよう努めています。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・夜間帯の見守りをモニター越しに行うことが出来、転倒リスクが高い方へのアプローチが早くなっている。それに伴い介護側の負担軽減や、夜間帯の見守りに対する安心感につながっています。スタッフの動きの面での負担軽減以外に、心理面での負担の軽減に大きく役立っています。
- ・各入居者に合わせセンサーを切り替えることが出来るため、見守りライフを導入した入居者の転倒やずり落ち事故が減少しています。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 東恵会)
 事業所名 (介護老人保健施設 星ヶ丘アメニティクラブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	③ / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	ベッドコール・コードレス (BC-RN) (テクノスジャパン)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月19日	10台	令和3年11月19日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>購入後、以前より入所しているご利用者と新規入所者の中から、購入した見守り支援機器の対象者をピックアップし使用している。一定期間の使用を行った後、使用継続の検討を行っている。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜勤時に見守り重視のご利用者の状況をエリア担当職員以外の職員も把握しやすくなり、精神的な負担が改善していると報告を受けている。(ナースコール本体 各端末で確認) また、新規入所で不穏な状況のご利用者に対し、一定期間センサーを利用することにより、夜間中に適時適切なサポートができるようケア計画を立てる上でも役立っている。</p>			

(注) _____

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤時人数体制 全フロア合計8名 (3名 3名 2名)	夜勤時人数体制 全フロア合計8名 (3名 3名 2名) ※見守りの人員配置の効率化はある

③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制
全フロア合計8名 (3名 3名 2名) ※見守りの人員配置の効率化はある

②と③が異なる場合はその理由

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組

当施設のフロアの構造は東側と西側に分かれており、夜間帯はそれぞれの方面に担当を決めて見守り・巡視を行っている。転倒・転落の危険性が高いご利用者が多数いる時は、担当職員が廊下にて待機し、見守り以外の業務（記録業務など）を行っている場合もあった。現在も、廊下にて待機、見守りは行っているが、以下のような見守り・巡視に関する人員配置の改善を行うと同時に、業務の時間割り当てを見直し、他の業務も効率を図っている。

例 3人体制の夜勤

東側 見守り重視対象 ご利用者 複数名	現在	センサー導入後	見守りにおける人員体制の効率化
	見守り・巡視担当 ← (主に1名)	見守り・巡視担当 ← (3名で確認・対応)	
東側見守り担当職員B ※場合によっては、廊下にて見守り待機する場合もある。		サービスステーション担当職員A (ナースコール本体にて確認可)	主の見守り担当者だけでなく、各職員が持ち場以外の状況を把握し、連携が取りやすくなる。見守り以外の業務の時間を確保し、業務全体の効率化を図る。
		東側見守り担当職員B (端末にて確認可)	
		西側見守り担当職員C (端末にて確認可)	

利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組

センサーを使用するご利用者を、ステーション近くの居室にする、同じ区域に固めるなど見守り重点区域を明確にし、複数名で注視することとした。

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること
 複数名で注視し見守り重点区域を明確にすることにより、職員の素早いサポートが可能となり、転倒・転落への精神的な負担の軽減に役立っている。
 見守り以外の業務の割り当てを増やし、より一層の業務全体の効率化を図る。
 入所者のベッドからの転倒・転落事故を未然に防ぐことによる事故の減少が期待できる。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 中野会)
 事業所名 (介護老人保健施設 LA・LA・LA)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	リコーみまもりベットセンサーシステム		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月29日	6	令和3年11月29日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>入所定員100名に対し、常時見守りが必要な転倒・転落等のリスクがある利用者20名程度の中で特にリスクの高い方に対し、日勤、夜間帯両方で2階2台、3階2台、4階2台と各フロアに設置して使用している。</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>日勤、夜間帯共に巡回の回数を変更せず行っている。夜間帯は3名の介護スタッフが2時間に1回の巡回を行い、利用者の状況を確認している。導入した利用者、導入していない利用者と比較すると、導入した利用者は居室での状況、特に夜間帯の動きが把握できるようになった。今後、いろんな方で試すことで、行動の分析、予測ができ、転倒転落の未然防止に繋がり、事故件数を減少できるのではないかと期待している。</p> <p>また、その場で見守りできることで、介護職員の心身の負担に繋がっている。</p>			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
29人	29人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
29人	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。見守りセンサーを導入後も、人員体制はそのまま継続し、時間が削減できれば、レクリエーションやコミュニケーションなど他の業務に人員を活用し、業務負担の軽減のみでなく、利用者へのサービス向上に繋げられるよう取り組んでいる。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>① 巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行っている。</p> <p>② 見守り機器の導入により、利用者の行動分析と予測をし、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応している。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
もっと多くの利用者に使用し、利用者の行動分析と予測ができていけば、介護職員の心身の負担軽減や利用者の転倒転落の件数を減らしていけると期待している。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット

法人名 (医療法人聖俊会)
 事業所名 (豊川老人保健施設ケアリゾートオリーブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	テルサコール(株式会社モルテン) ,		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月10日	10 台	令和3年11月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ◎入所者の中で従前は起床センサーや離床センサーを使用していた転倒・転落リスクが高い方から6名を選定、各フロアで状況に合わせてセンサーを稼働させて見守りしている。
- ◎入れ替わりの多いショートステイ用のベッドに設置して利用者の状況に合わせて使用している。
- ◎マットレスとしての性能も高いため、褥瘡予防効果にも期待して使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ◎既存の離床センサーではコールが鳴ってから訪室してもすでに転倒されていることがあったが、テルサコールは端坐位になる前で反応するためより素早い対応が行えている。
- ◎既存の起床センサーに比べて寝返りなどによる誤作動が少なく、精神的に楽になった。
- ◎日々入れ替わるショートステイの利用者ごとにセンサーを設置したり撤去する必要がなくなり、新規の方に対しても試験的に使用することで夜間の行動が確認できるため職員の負担が軽減できている。
- ◎寝心地がよく良眠できているとマットレスとしても評判が良い。
- ◎既存の見守り機器との入れ替えがいいのか併用することで相乗効果が生まれるのか見守り機器の活用について考える機会になった。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.5 名、看護職員 9.5 名	定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.5 名、看護職員 9.5 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
定員 100 名に対して 常勤換算で介護職員 36.5 名、看護職員 9.5 名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
◎既存のモニター型見守り機器と併用、センサー反応があった際にはモニターを確認して訪室の必要があるか判断している。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
◎従前の離床センサーは床マットタイプで視認できるため、避けてしまったり、嫌悪感を持っていた利用者に使用した。 ◎従前の離床センサーでは訪室が間に合わず転倒している、起床センサーでは寝返りなどの誤反応が多く、結果的に不必要な訪室が職員の負担になっている利用者に使用した。 ◎導入効果、満足度に関して職員にアンケートを実施した。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
◎マットレス内蔵型のため目に見えることがなく、利用者の心理的な負担の軽減が期待される。 ◎従前の起床センサーに比べて寝返りなどによる誤作動が少ないため、職員の不必要な訪室やそれによって利用者の睡眠を妨げてしまうことが少なくなり、職員の負担軽減と利用者の安眠に繋がることを期待される。 ◎定期的にアンケートを実施することで効率化に必要な機器、適正な台数、使用方法が明確になっていくことが期待される。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 さわらび会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム さわらび荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り機器	眠りスキャン NN-1320 (パラマウント製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年2月28日	75台 /	令和4年2月28日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

必要な利用者に設置し昼夜使用している。夜間の睡眠状況、心拍、血圧の把握に使用している。

入居者様の異常を早期に見つけられるよう入居者様にあつた使用方法設定している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ 起き上がりを早期に検知でき転落、転倒防止ができた。
- ・ 夜間の睡眠状況を把握することにより、入居者様の夜間の状況を確認することができた。これを参考にプランへ反映することができた。
- ・ 睡眠状況を把握できるとともにバイタルが確認でき異常の早期発見に繋げることができた。

(注)

- ・ 導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤勤務において、実人数3名の配置を要する。(1月介護職員の夜勤数は平均7回程度) 現状 1:2.6の配置状況)	夜勤勤務において常勤換算で2.4以上(1月介護職員の夜勤数は平均4回程度に減少) 1:2.9程度の人員配置で可能
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
コロナの影響により①の配置のまま	
②と③が異なる場合はその理由	
コロナ陽性者が利用者、職員に発生し人間的にも利用者の部屋の配置的にも2.4人に移行するのに無理が生じたため終息まで見合わせ中。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯での見守りが可能となり、既存のセンサーマットより早く起き上がり等感知することができ、転倒予防に繋がった。 ・見守り、記録の場所の制限がなくなり場所を選ばず業務ができるようになった。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本来の能力の把握、要因対策、プランの立案により、睡眠状態の改善対策を講じる事が出来るようになった。 ・利用者の心拍数や呼吸数、睡眠状態を把握できるため夜間介護従事者の精神的身体的負担の軽減ができた。 ・介護記録のデジタル化の統一。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の適正配置に繋がり、有給休暇等の取得につながることで働きやすい職場環境が整備できる。 ・転倒等の事故発生が防げ、入居者様、ご家族様の安心につながる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人1980)

事業所名 (高齢者グループホーム円)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	リコー みまもりベッドセンサーシステム		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年10月26日	8台	令和3年10月14日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <p>定員8名に対し8台を設置。利用者の状況に合わせて稼働中</p>			
<p>【介護ロボットの導入効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置前は、ベッドの離床に気付かず転倒、骨折事故が発生していたが、設置後はセンサーにより離床の前に気付くことができ、ベッド離床の際の転倒、転落事故は月平均0件である。 ・夜勤職員は1名で、モニター監視と定期巡回、常時見守りが必要な入居者の追加巡回(1晩平均5~10回以上)をしていたが、センサー設置により常時見守りが必要な入居者の追加巡回はほぼセンサー検知時のみ(0~2回程度)にすることができた。追加巡回の回数は80%軽減できた。 ・以上のことから、入居者家族の安心感・満足度は向上した。 ・介護従事者、特に夜勤職員の場合は、巡回の軽減、入居者の行動把握が効率的にできることにより精神的ストレスの軽減、業務の効率化ができ、業務に対する満足度も向上した。 			

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間時間帯 1名	夜間時間帯 1名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
夜間時間帯 1名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動履歴のレポートを活用することによって、今までは手入力しなければならなかった情報（アラームが鳴動した件数や状態）が入力不要になり、業務時間の削減 ・体重測定機能を利用しての利用者の健康・栄養状態の管理により、体重測定業務負担の削減 ・センサーにより、夜間の巡回時間が削減でき、その分の時間が他の業務に充てることができ、夜勤職員の残業時間が0時間に。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけができるようになった。 ・日勤や夜勤中のケアをしながらの記録作業は職員の大きな負担となっているが、見守り機器で得られるデータは自動でレポートされることにより、記録すべき事項を大幅に削減できた ・見守り機器により利用者のアラーム発報のタイミングを知ることができ、そこから生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように訪室できるようになった。 ・行動パターンの把握による、職員の休憩時間の適正取得 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・主に夜勤職員の心身の負担軽減につなげ、心理的にゆとりを持てるようになり、業務に対する意欲の向上が見込める ・利用者の安眠の促進、介助の質の向上により、利用者のQOLの維持向上が見込める 	

別添-1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 名古屋ライトハウス)
 事業所名 (特別養護老人ホーム瀬古第一マザー園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠り SCAN/NN-1320、眠り SCAN eye カメラ (パラマウントベッド社製)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月18日	眠り SCAN 44台 眠り SCAN eye セット 10セット	令和4年3月18日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

平成30年度に見守り用ベッド6台を導入し、今回、見守り機器を導入していなかった残り54台に眠り SCANを導入した。(うち10台には眠り SCAN eye セットで導入)

現在は特養60床全てに見守り機器を設置することができ、各フロアのスタッフルームのパソコン上で、入居者の動きや体調を管理することができている。特に夜間の職員数が少ない時間帯は見回りだけでは不十分で転倒・転落事故も多数発生していたが、見守り機器を導入することにより、転倒・転落する前に訪室して事故防止ができている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・全床に見守り機器を導入したことで、1時間に1回実施していた夜間の巡視にかかる時間を削減することができ、削減できた時間を他の入居者のトイレ誘導に充てることができている。
- ・転倒や転落事故の回数が多い入居者については、眠り SCAN eye をセットで設置したことにより、訪室しなくても入居者の動きを把握することができるため、事前に事故を防止できると同時に不必要な訪室を省くことができている。
- ・夜間帯は職員数が少なく、常にナースコールとセンサー対応に振り回されていたが、見守り機器を導入したことにより、センサーに振り回されることなく、適切なタイミングで訪室することができ、肉体的・精神的負担の軽減に繋がっている。
- ・入居者は夜間、職員の巡視の都度、目を覚ましてしまい、睡眠を妨げられていたが、必要最低限の訪室になってからは、入居者の睡眠の質そのものも向上したように感じる。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 6 : 1	2. 6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2. 6 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・全床に見守りセンサーを導入したことにより、巡視にかかる時間を約3時間削減でき、職員の負担軽減に繋がっている。 ・今まで巡視にかかっていた時間を利用して、他の入居者のトイレ誘導を実施したり、落ち着いている時はタブレット等を用いて、動画配信研修を受講したりする等、夜間帯を有意義に過ごすことができるようになった。 ・事故を未然に防ぐことができるようになり、事故件数の減少とともに、事故報告書を作成する必要がなくなり、職員が残業をして書類を作成する時間が減少した。 ・インカムを導入することで、特に夜間帯の職員同士の情報共有がスムーズに実施でき、緊急時も含めて職員が無駄なく動くことができている。 ・看取り期の入居者がいるため、夜勤職員の精神的負担の軽減に繋がっている。パソコンの画面を見ることで、睡眠状況を見ながら、夜中でも該当者が起きているタイミングで声掛けや水分補給をすることができている。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャンを導入することで、夜間帯においても利用者が覚醒していることが分かるため、適切なタイミングでトイレ誘導や水分摂取をすることができるようになり、無駄な訪室を減らすことができた。空いた時間で内部研修用の動画視聴ができるようになり、残業時間の軽減に繋がった。 ・熟睡中の利用者に対して排泄介助を理由に起こすことが減ったため、利用者の睡眠の質の向上に繋がっている。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の睡眠パターン(行動パターン)を把握することができるため、排泄ケアを中心とした個別ケアを充実させることができる。 ・職員が少ない夜間帯において、転倒や転落リスクが高い利用者にカメラを設置することによって、転倒事故を未然に防ぐことができ、事故報告書の作成も含めて職員の負担軽減に繋がる。 	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 清涼会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 東海清涼苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	次世代予測型見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年1月31日	10台	令和4年1月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・各ユニットにて見守りセンサーの使用が適している入居者様を抽出。取りまとめ、10台を必要な居室へ設置。
- ・介護責任者においてもサーバーにて把握し、必要に応じてユニットへの対応また指導を行っている。
- ・発報を入居者様ごとの事故を未然防ぐタイミングに合わせる事で、不要な訪室を減らし使用している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ユニットケアでは基本的に居室の扉は閉めているので、居室内の様子が把握できることにより不要な訪室が減少しプライバシーと安眠の確保ができています。また、訪室することで不穏になれる入居者様も良眠されるようになった。
- ・ベッドから臥床時に入居者様のADLに合わせた体勢による危険動作のタイミングが分かるため、迅速な介助による安全確保ができ、無駄なく入室できるため入居者様も介護職員も良好な関係につながっている。
- ・現在は使用している入居者様で事故が発生した場合、録画機能を活用して委員会等で事故検証と再発防止の策定を進めており、必要であればご家族様に見て頂く事もできます。
- ・介護職員の見守り業務の負担が軽減し、ナースコールの重複時に優先順位が分かりやすくなり職員の精神面も安定し離職防止に繋がっている。

(注) —

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.91 : 1	2.1 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1.91 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
導入後まだ3カ月程度のため、今後見込まれる。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内のどこからでも情報へアクセスできるように通信環境を設定し、把握できる職員の移動距離を減らすことで直接のケアに費やすことのできる時間が増えた。 ・人員に限りがある為、センサーマットを多用していたが、見守りシステムを導入したことで他の業務を行っていてもスマートフォンにて状況を確認できるため、余分な移動がなく人員における効率化につながった。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間、入眠されているかの確認がスマートフォンでできるため、頻繁に個室を訪れる必要がなく、入居者様の安眠を妨げる事がなくなり睡眠の質が向上した。 ・夜間は夜勤者1名体制で20名の入居者様に対応するため、異なる居室で同時にナースコールが鳴ると優先順位の判断が困難だが、見守りセンサーによりスマートフォンで様子が把握できる為、的確に判断し駆けつける事ができる。それにより、転倒事故を未然に防ぐことで事故も減り、夜勤職員の事故に対する恐怖感・緊張感による精神的負担を軽減できるようになり、入居者様に安全と安心を提供できるようになった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・事故(転倒・転落)発生件数が導入前は約4.4件/月だったが、導入後は約3.5件/月と減少した。 ・今までの感圧センサーでの寝返りの際の誤感知による発報の確認の時間や、巡視の際の眠りを妨げてしまう事で起こってしまう入居者様への対応に要した時間を、他のケアに使う事ができることで、職員の精神・身体両面の負担軽減につながり、離職率を下げる事が期待できる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会医療法人愛生会)
 事業所名 (愛生複合型サービスセンター平安通)
 サービス種別 (看護小規模多機能型居宅介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ <u>1 / 2</u>		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	アメリカ 83幅 分配器 NC-10 2P 標準		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月10日	1	令和3年12月10日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【介護ロボットの使用状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・転倒や転落対策のためにコールマットで間に合わない利用者に対し使用。 ・エアマットのように褥瘡予防効果があるため、離床センサー設定 OFF 時も使用。 			
【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) <ul style="list-style-type: none"> ・離床センサーで転倒等の防止をすることができた。 ・体動、起き上がり、離床の3段階に分かれているため利用者に合わせた使い方ができた。 ・蒸れ対策希望もあり換気ができる状態でよい。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (独立行政法人地域医療機能推進機構)
 事業所名 (中京病院附属介護老人保健施設) /
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
見守りシステム	エスパシアシリーズ			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和4年3月4日	2	令和4年3月4日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

「離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド」2台を使用し、ご利用者様の動き(起き上がり/端座位/離床/見守り)を把握することで、夜間帯を中心とした利用者様の転倒・転落事故防止が図れている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

従来のセンサーマットでは足を置いたタイミングよりもセンサーマット上に座り込んだ状態で発見されることがあり、転倒前にセンサーマットが転倒予防策として有効とは言えない事例が見られた。導入した介護ロボットは立ち上がる前にセンサーが反応し、ナースコールが鳴動する。

ご利用者様の動作に合わせたセンサー設定が可能。立ち上がる前にナースコールが鳴動するため、立ち上がるまでの間に職員が居室に向かう時間が確保できる。ベッドに内蔵されたセンサーを活用し、より正確な検知が可能になり、センサー誤報による介護スタッフの駆けつけが減った。

介護スタッフの見守り業務の心理的負担の軽減、業務の効率化が図れている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
日勤 看護師4名 介護員11名 夜勤 看護師1名 介護員3名	日勤 看護師4名 介護員11名 夜勤 看護師1名 介護員3名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
日勤 看護師4名 介護員11名 夜勤 看護師1名 介護員3名	
②と③が異なる場合はその理由	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転倒・転落事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能 ・転倒・転落事故予防と早期発見 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転倒・転落事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能 ・転倒・転落事故予防と早期発見 ・介護職員の身体的・精神的負担の軽減 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>ご利用者の状態に応じたセンサー設定（起き上がり・端座位・離床）により、体動に対してナースコールが鳴動するため、立ち上がる前に訪室や声掛けすることで事故予防に繋がっている。</p> <p>正確な検知が可能になり、センサー誤報による介護スタッフの駆けつけが減った。</p> <p>日勤帯において、コール報知が可能のため常に利用者を見守る必要性が減り、その時間を他ケア等に使えている。</p> <p>夜勤等の限られた人員配置時には、職員の心労負担の軽減に寄与している。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 明翠会)
 事業所名 (特別養護老人ホームなのはな苑むつみ)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		「眠りSCAN (NH-1320)」	
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月24日	29台	令和3年12月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【介護ロボットの使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29床全入居者様を対象に設置した。 ・各ユニット(3ユニット)・看護師・ケアマネジャーのパソコンに連動させ、毎日の睡眠状態、呼吸・心拍状態の確認。離床状況の把握をしている。 ・インカムに連動させている。 			
<p>【介護ロボットの導入効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の睡眠状態を可視化できるデータに残せるようになったことで、今までの「感覚」とは違った正確な情報を共有できるようになり、日中も含め入居者の個別ケアをさらに推進する動きが出ている。 ・タイムリーに情報を把握できるようになったため、定期的な夜間巡視の回数を減らし、入居者様の安眠を確保するとともに、スタッフの業務負担軽減や今まで時間外で行わざるをえなかった雑務や記録等の時間を確保できるようになった。 ・看取り介護の入居者様に対して、呼吸や心拍の状態をモニターやインカムを通じて把握できるようになったため、スタッフの心的負担が緩和され、家人への適切な情報提供が出来るようになった。 			

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 観寿々会)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム ヴェルバレー)
 介護保険事業所番号 (2372900494)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入した介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	見守り・コミュニケーション
	②介護ロボットの製品名	Neos+Care (ネオスケア)

適用を受けた補助率	1/2
-----------	-----

導入年月日	導入台数
令和3年10月1日	2台

(1)介護ロボットの使用状況

ベッドからの起き上がり時に転倒リスクの高い利用者を選定し、利用者同意を得て使用している。導入前は、離床センサーを使用しコールがなるたびに訪室していたが、導入後は端末にて確認し安全が確認できれば、訪室しない対応をしている。実際に危険を感知した場合には、利用者のアセスメント材料として活用し利用者への安全確保のため対策を講じている。

(2)介護ロボットの導入効果

転倒リスクの高い利用者を使用することで、離床センサーは可視化できなかったことにより危険性が低い場合 (利用者の体動のみ) でも訪室しなければならなかったが、ネオスケアでは可視化できることにより転倒の危険性が低い場合には端末で確認し安全が確認できた場合には訪室しないことにより、介護職員の見守りの負担軽減へとつながっている。また、導入したことにより、訪室する時間が削減されその時間で介護職員が安心して利用者の介護にあたれるようになった。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人共愛会)

事業所名 (特別養護老人ホーム第2 共愛の里)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン (N-1320) / 眠りスキャン eye (KX-Z8192)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月22日	セット30台 眠りスキャンのみ10台	令和3年10月12日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- ・ コールがあっても駆けつけるのに時間のかかる奥の部屋を中心に、夜間に転倒リスクの高い方や看取りまたは急変の心配のある方のお部屋に設置している。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ 介護室から入眠状況を確認できてコールの際も状態を確認しながらお話ができるので夜間帯にフロアの端から端まで慌てて移動することが減り、介護職員の精神的な負担が大幅に減らすことが出来た。
- ・ 起き上がりの時点でのコールもトイレ誘導の介助が必要な方にはご自分でトイレへ行くこととしての転倒のリスクが減っている。

(注)

- ・ 導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
常勤職員 40 名（夜勤可 29 名） 非常勤（短時間パート） 6 名	常勤職員 40 名（夜勤可 29 名） 非常勤（短時間パート） 6 名
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
常勤職員 38 名（夜勤可 31 名） 非常勤（短時間パート） 4 名	
②と③が異なる場合はその理由	
計画策定時から介護ロボットの導入に至るまでの期間で退職者が出たため。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の見守りや対応が効率化されてきたことで今後は夜間帯の配置を見直していけると考えている。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・複数カ所でのコールがあった場合、介護室から見守りカメラで利用者さんの様子を確認優先順位を考えての指示や対応ができるようになった。 ・看取りの方や体調変化に注意のいる方のお部屋に眠りスキャン eye を設置したことにより心拍や呼吸等が介護室から確認できるため夜間に必要以上の訪室がなくなった。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで職員が気づかない内にご自分でトイレに行かれていた方の排泄リズムを把握することで体調不良時や足腰が弱くなってきた際のケアにつなげていける。 ・まだ導入後に転倒事故はないが、もしも転倒があった際も 3 日以内であれば状況を振り返ることが可能なので再発防止策をより具体的に考えることが可能と思われる。 	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3/4 ・ 1/2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	眠りスキャン NN-1320		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月24日	2	令和3年11月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

認知症の利用者が大半を占める3階フロアにて毎日24時間使用している。

同じフロア内のナースステーションにモニタリング用のパソコンを設置し、いつでも利用者の様子を見ることが出来る。またスマートフォンも2台準備し、Wi-Fi環境を経由してスタッフはどこに居ても利用者の状況をリアルタイムに把握出来る環境が出来た。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・新規の入所者には1週間程度、眠りスキャンを利用する事とした。その事により、新しい入所者の生活リズムを客観的に把握できる様になり、入所者に対するアプローチ方法をスタッフ全員でデータに基づき検討出来る事となった。
- ・具体的には、利用者の覚醒や離床が把握できる事に伴い、転倒リスクが高いか否かの判定や転倒が発生した場合も迅速な対応が出来ている。
- ・夜間帯などはモニターやスマホ等で呼吸・睡眠状況を把握できる事により、訪室回数を減少する事も出来、職員の精神的・身体的負担の軽減に大きくつながっている。
- ・入所者の身体機能の変化等も早期発見できる事となり、この部分においても職員の負担軽減に大きく貢献している。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8 : 1	2.9 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.5 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>昨年末からコロナの影響によりショートステイの利用者が大幅に減少した事に伴い、全体の利用者数が大幅に低下した事と、一方で今年に入ってから新規で看護・介護の入職者を確保できた事に伴い、人員体制（マンパワー）は充実する事が出来た。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>夜勤帯は導入前まで約1時間おきに訪室していたが、見守り機器（眠りスキャン）を導入した事に伴い、入所者の夜間の睡眠状況等を概ね把握出来る様になった。その上で、入所者の睡眠状況によって部屋の移動等を実施し、頻回な訪室が不要な方と必要な方を分けた所、結果的に不必要な訪室回数を大幅に減らす事が出来た。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>訪室が必要で無い方の部屋を訪問する事が減る事や、同室者の介護の際の音で睡眠を妨げたりという事が減少した為、利用者の安眠確保につなげる事が出来た。また職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来た為、ステーションでの事務作業に取り組む時間を確保できるようになった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>今までは、60歳近い職員より夜勤は体力的に辛い、等の発言があったが、この見守りシステムを導入させて頂いた事で、大きな業務改善を実施する事が出来た。夜勤帯の身体的・精神的な負担を減少させる事が出来た為、60歳を超えても夜勤を継続して出来る者が増える事が期待出来る。今後はもう少し見守りセンサーの数を増加させ、更なる業務改善につなげていきたいと考える。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (医療法人 和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	エスパイアシリーズベッド (KA-N1411H)		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月24日	35 /	令和3年11月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】
 センサー内蔵のベッドを2Fフロアーで17台、4Fフロアーで18台配置し使用している。
 各フロアーにおいては、ナースコールの使用が難しい方やベッドからの起立時や車椅子への
 移乗時に転倒のリスクが高い方を人選し使用している状況である。

【介護ロボットの導入効果】
 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 従来のセンサーマットでは、ベッド上の設置するタイプと足元に設置するタイプに分かれて
 いたが、台数が限られる中、利用者の状態に応じてセンサーを使い分けていたり、その都度
 設置するセンサーを入れ替えたりとスタッフの労力も非常に大きなものであった。
 今回のセンサー付きベッドでは、利用者の状態に応じて起き上がり・端座位・離床時・見守り
 等のパターンをそれぞれ設定する事が出来る為、利用者の個々の状態に応じて対応がしやす
 くなった。またベッドとセンサーが内蔵(一体化)されている為、センサーそのもののズレが
 無くなり、誤報やエラーが減少した。利用者の体重も含めて作動を設定できる為、本来、必要
 の無いセンサー反応も減少し、スタッフの労力の低下につながっている。

(注) _____

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8 : 1	2.9 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
2.5 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>昨年末からコロナの影響によりショートステイの利用者が大幅に減少した事に伴い、全体の利用者数が大幅に低下した事と、一方で今年に入ってから新規で看護・介護の入職者を確保できた事に伴い、人員体制（マンパワー）は充実する事が出来た。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>今までのセンサーマットでは、利用者の状態に応じてベッド上に設置するタイプや足元に設置するタイプを使い分けていたが、時には両方使用したり、また一時的に片方だけで良かったりとスタッフも設置に関する時間的な労力が非常に多かった。また誤報も多く、頻繁に居室を訪問するも必要の無い訪問だったりする事が多かった。今回の新たなセンサーではベッド上での設置で様々な設定が可能である為、センサー付け替えや誤報時等の無駄な作業時間を大幅に減少でき、この時間をケア記録の作成やミーティングの時間に使う事が出来る様になった。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>センサーの誤報等により訪室が必要で無い方の部屋を訪問する事が減る事や、コール音による同室者の睡眠を妨げたりという事が減少した為、利用者の安眠確保につながる事が出来た。また職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来た為、ステーションでの事務作業や記録に取り組む時間を確保できる様になった。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>今回、センサー付きベッドと併せ、同じパラマウント社製の眠りスキャンも2台導入させて頂いた事に伴い、ベッドと眠りスキャンを同時に使用する環境も整える事が出来た。この両者を組み合わせる事によって、センサーの機能と利用者のバイタルサイン両方が一度にモニタリング出来る事となる為、将来的には眠りスキャンの台数を増やし、更なるスタッフの労力低下に繋げていきたいと考える。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人順明会)
 事業所名 (介護老人福祉施設 ジャルダン・リラ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り	眠り SCAN		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月25日	35台	令和4年3月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

現在、夜勤時に2ユニットで1名の夜勤配置を行う為に、1階と2階のユニットの組み合わせのあるグループのユニットに使用しています。看取り介護等で夜間に状態観察が必要なご利用者様、転倒の恐れのある利用者様へ使用しているところです。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

介護時間の短縮について…夜間の見守りで1階と2階を定時で行き来していた巡視をご利用者の状態に合わせた随時の巡視が出来るようになった。

直接・関節の軽減効果…夜間帯に24時間シートなどご利用者に係る事務仕事をする時間を増やすことが出来た。

介護従事者の満足度…夜間帯に階段を何度も行き来するのが辛いと考えていた高年齢の介護従事者の負担が減り、夜勤の勤務をこれからも長期間継続できることとなった。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3.1 : 1	2.9 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
変化なし	
②と③が異なる場合はその理由	
現状、奇数ユニットが存在することから人員基準を下回る配置となる為、困難。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
スマートフォンを活用して介助中であっても異常を知ることが出来るようにした。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
利用者の睡眠状態を可視化することが出来るので夜間の不眠状態が分かり、日中活動の計画に活かすことが出来る。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
体調不良のご利用者様へ使用することにより急変時において早急な処置・対応を行うことが出来ると考えております。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 貞徳会)

事業所名 (明範荘特別養護老人ホーム)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
見守り	眠りSCAN / 眠りSCAN eye (バラマウントベッド株式会社)			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和3年12月22日	12台	令和3年12月22日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

昨年度に導入した機器を含め、施設(特別養護老人ホーム・ショートステイ)内の眠りSCANの整備台数が52台となり、各ユニットに4台を配置している。ユニット内ではiPad、介護ステーションではPCを利用して睡眠状況等をモニターしている。また、介護記録ソフトと連携し、介護記録に定時巡回状況(在床・心拍・呼吸)やアラート設定(離床・呼吸や心拍の増減)した情報が自動記録できる仕組みとなっている。

<活用方法>

- ・睡眠状況を把握し、日中の活動意欲を高め、睡眠の質を良くする。
- ・睡眠状況を把握し、眠りの妨げにならないよう、訪室及びおむつ交換を実施する。
- ・睡眠状況を把握し、朝の起床を適切な時間に促す。
- ・心拍数や呼吸状態を把握し、体調の変化を観察及び記録する。
- ・利用時に使用し、睡眠リズムをはじめとして生活状況の把握を行う。
- ・認知症等の精神不安定な利用者に使用し、夜間の異常行動をタイムリーに把握する。
- ・離床センサーとして活用し、転倒の危険性を察知し、事故予防に活用する。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・利用者様の日中の活動意欲を引き出す支援を検討するようになった。
- ・利用者様の安眠が保てるようになった。
- ・職員の過度な訪室が減少し、身体的・精神的負担が減少した。
- ・夜間の適切なおむつ交換に努め、皮膚トラブルが減少した。
- ・呼吸や心拍数の状況から、熱発や痰がらみ等の体調変化を把握できるようになった。
- ・ケアマネジャーや家族へ実際の睡眠状況をデータ提供できた。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員：利用者定員／2.10：1	介護職員：利用者定員／2.10：1 (現状維持)
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
介護職員：利用者定員／2.05：1	
②と③が異なる場合はその理由	
<p>人員体制はやや充実したが、ユニット型施設の配置基準を維持するための最低限の増員、補充のみで、概ね目標とした水準で推移している。</p> <p>介護ロボットを毎年のように増設開始したH29年には1.90：1だった配置がH30年は1.98：1、R1年は2.02：1と、徐々に人員配置数が緩まり、生産性向上に繋がっている。</p>	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>眠りSCAN及び眠りSCANeyeを活用した、効果的な活用方法のマニュアル化は実現していないが、導入後まもなく発生したコロナ感染対応にて、必要以上の訪室（接触）が避けられるよう遠隔からセンサー、カメラを通じた見守りを行う等の対応に活用できた。</p> <p>今後は感染対応等を通じて見出した活用をマニュアル化し、センサー等を活用した効果的な見守り業務の標準化を図り、動線の短縮化、業務効率化などの業務改善を図りたい。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>眠りSCANeyeを併用することで、眠りSCANのアラートがあった際、まずはカメラ映像にて状況確認したうえで即時対応すべきか判断できた。アラートあれば即座に駆けつけなければならないといった、急かされる場面は減少した。</p> <p>また、事故リスクや睡眠リズムが整っていない利用者に対しては、直接訪室しなくても遠隔で状況把握できる事で、随時巡視の移動・訪室対応の時間が省略でき、他の業務へ充てられた。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>眠りSCAN及び眠りSCANeyeの活用場面をより具体的に定め、マニュアル化して介護ロボット活用を促進し、利用者へエビデンスに基づいたケア提供や接遇の充実化を図りたい。そして、効果的なケア実践を通して、利用者の心身の健康保持による在所期間の延長や利用率、利用者満足度（CS）の向上の実現を目指したい。</p> <p>また、利用者満足度の高いケア実践が行えれば、自ずと介護職員のやりがいや達成感も高まり、職員の満足度の向上にも繋がる。これらの成果が、介護の仕事の魅力を生み出し、介護職員の待遇改善を図る形となり、結果的に介護職員の定着や確保、安定した施設運営基盤づくりに寄与される事を期待する。</p>	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 かなえ福祉会)
 事業所名 (ショートステイ すないの家 春日井)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	テクノスジャパン コールマット・コードレス		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年11月8日	6台 /	令和3年11月8日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】
 ベッドからの転倒・転落リスクが高い方を中心に利用者を選定し、危険度が高いと判断した方の居室に配置。
 状況に合わせてセンサーを稼働させ、見守りを開始した。

【介護ロボットの導入効果】
 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 ※睡眠状況の把握を行うことにより、トイレ誘導と巡回を必要時に必要な回数を行うことに繋がっており、転倒・転落のリスク軽減ができています。
 ※ベッドから降りる事を感じでき把握する事で転倒を未然に防ぐことができています。
 特に夜勤時間帯の職員の、精神的負担軽減に繋がっている。
 ※利用者様の行動パターンを把握する事ができた。(何時にトイレに行くのか?、何時に起床しはじめるのか等)

(注)
 ・導入する介護ロボットごとに作成すること。
 ※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人長寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホームシルバーピアみずほ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠り SCAN・眠り SCAN eye(パラマウント社製)」		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和3年12月16日	眠り SCAN10台	令和3年12月16日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

「眠り SCAN」は主に夜間帯の見守り業務の一環として使用をしている(入居者様の睡眠・バイタル状況の確認)。優先順位をつけて、必要な方に使用をしている。また、併せて「眠り SCANeye」を使用することにより、居室内の映像が見られるため、より正確に居室の様子を確認し、状況に合わせた対応が可能となっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

「眠り SCAN」にて各入居者様の睡眠・バイタル状況が確認できるため、入居者様の生活リズムに合わせて、訪室・ケアの提供が可能になっている。また、夜間不穏行動のある入居者様の転倒などが未然に防げている。排泄介助の際も、睡眠状況に合わせてケアに入れているため、スタッフの精神的な負担を軽減、入居者様の安眠の確保にもつなげることができている。

「眠り SCANeye」を併用することで、訪室せずに状況確認ができているため、身体的な負担も軽減させることができている。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人 悠)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 結いの郷)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	眠りスキャン NN-1320 ✓		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	1	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- (1)事業所内にWi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入。各ユニット内(3ユニット+看護)にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2)職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意
- (3)眠りスキャン(パラマウント製)と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動することから、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- (1)間接支援の軽減(記録、職員間のコミュニケーションの情報共有)を目標とする。
 - ☛記録ソフト導入に伴い、間接業務の時間的軽減に繋がっている。また各職種の一斉閲覧が可能であり、情報の共有化は今のところ効果は大きいと捉えている。
 - ☛インカム導入に伴い、情報発信の一斉連絡が可能であり、有事災害時においても効果は大きい。
- (2)間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする
 - ☛日勤帯において、研修機会の充実(事業計画書内に記載)、キャリアコンサルタントによるセルフキャリアドック導入し、支援員への面談の機会を増やす。メンタルの充実を図り、日々の支援の充実を施したい。
 - ☛夜間帯において、十分な休憩時間の確保が出来た
- (3)職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。

質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う

 - ☛令和4年10月、令和5年3月に実施予定

従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自のExcelにて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者QOLの向上に努めていきたい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.62:1	1.5:1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1.6:1	
②と③が異なる場合はその理由	
現在、採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<p>当事業所においては、ユニット型特別養護老人ホームであり、3ユニット/29人の入居者が過ごされています。</p> <p>3つのユニット（家）が分離されており、それぞれの玄関口より日中は出入りしております。また、夜間帯については、各玄関口を施錠し、内扉を利用して支援をさせて頂いております。</p> <p>日中、各家が独立していることから、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン⇒24Hシート⇒生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。各ユニット（家）内で、i-padを活用し記録の記載を行う。また、「ほのぼのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンにおいて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。</p>	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して2名で行っている。眠りスキャンを始めとして、介護ロボットの積極的な利用することで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりに繋げていきたい。結果、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p>	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p>	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安芳)
 事業所名 (介護付有料老人ホーム 永遠の郷)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4 ・ 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション	パラマウントベッド エスパ ^シ アシリーズ		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月24日	29	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

- (1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム 12 台導入。
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- (1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮)
 - 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。
 - インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている
- (2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。
 - 年間計画書における研修の機会を増加。1回/月 全職員での研修会実施予定
- (3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保
 - 30 人の入居者に対して、2 人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。
- (4) 満足度アンケートを導入半年後、1 年度と行う
 - 令和4年10月、令和5年3月に実施予定

従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。

(注)

- ・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1. 8 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
継続的に採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。 また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に繋げていく。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。 あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。	

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (株式会社 安芳)
 事業所名 (介護付有料老人ホーム 永遠の郷)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けた補助率	3 / 4			1 / 2
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名			
見守り・コミュニケーション	パラマウントベッド 眠りスキャン NN-1320			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間	
令和4年3月24日	1	令和4年3月24日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	

【介護ロボットの使用状況】

- (1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム 12 台導入。
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- (1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮)
- ☛ 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。
 - ☛ インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている
- (2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。
- ☛ 年間計画書における研修の機会を増加。1回/月 全職員での研修会実施予定
- (3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保
- ☛ 30 人の入居者に対して、2 人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。
- (4) 満足度アンケートを導入半年後、1 年度と行う
- ☛ 令和4年10月、令和5年3月に実施予定

従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。

(注)

・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
1. 8 : 1	
②と③が異なる場合はその理由	
継続的に採用活動中	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。 また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に繋げていく。	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。 あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。	

別添1 (介護ロボット用)

介護ロボット導入効果報告書(その1)

法人名 (社会福祉法人フロンティア)
 事業所名 (特別養護老人ホームみなどの憩)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けた補助率	3 / 4		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守りシステム	無線コールシステム「あんしんの絆」ワイヤレス人感センサー		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リースの契約期間
令和4年3月25日	29台分	令和4年3月25日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【介護ロボットの使用状況】

○事業概要

- ・見守りシステムの導入により、見守り業務（特に夜勤帯）の業務効率の向上、利用者様の安心安全な住環境整備、介護職員の生産性向上ならびに負担軽減を図りました。
- ・強力な無線LAN環境を整備し、施設内全域において、見守りシステムと職員が保有する携帯端末が円滑にネットワークアクセス出来る通信環境を整備しました。
- ・見守りシステムは、ご利用者様にナースコール、またなんらかの移動、転倒等が起きた際に、自動的に職員が所持する携帯端末にアラートが鳴ると同時に、その5分前からの映像が自動に保存されるシステムです。
- ・また、事務所に設置されたモニターには、全居室に映像を逐一確認することができ、職員の生産性が向上し、かつ、ご利用者様の見守りの精度も上がりました。

○導入

- ・令和4年3月25日 導入日
- ・令和4年4月1日 準運用開始（シフト変更 2か月試行期間）
- ・令和4年6月1日 夜勤2人体制に移行

【介護ロボットの導入効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ナースコールが同時発生した場合、瞬時に優先度を把握し、事故抑止につながっています。
- ・万が一事故が発生した場合、その原因分析を行い、再発防止策を講じることが出来るようになりました。
- ・不要な訪室を減らすことにより、利用者様がより質の高い睡眠を確保出来るようになりました。
- ・当初、不安に思っていた職員もシステムの安全性を理解し、質の高い介護サービスを提供できるようになりました。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

① 従前の介護職員等の人員体制	② 導入計画策定時における介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 1人 4階 1人	深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人
③ 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人	
②と③が異なる場合はその理由	
予定通りに、人員削減につながりました。	
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・無線コールシステム「あんしんの絆」の最大の特徴は、ナースコール呼び出し時において、同時進行的に居室の可視化を図ることにより、職員が訪室の優先度を施設のどの場所においても、瞬時に判別できることにあります。 ・特に夜勤時において、当該職員は、手持ちの携帯端末を外線電話と連動することにより、施設外線電話、ナースコール、居室内の状態確認が、瞬時に対応出来ます。また、素早く訪室することにより、転倒転落事故を未然に防ぐことも可能となり、一人一人の職員の介護サービスの質が飛躍的に向上すると同時に、生産性向上にもつながりました。 ・結果として、当施設では、これまで原則、1ユニット1名（施設全体3ユニット3名）の夜勤職員体制をしてきましたが、本システム本格導入後、夜勤体制の人員を削減しても、より質の高いサービスが提供出来ることを前提に、事業所全体3ユニットで2名の夜勤職員体制に移行することができました。これによって、施設全体の職員の労務負担を軽減出来ると同時に、シフト削減によって削減された人件費は、夜勤職員に配分すると同時に、施設職員福利厚生費に充当しました。 	
利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯端末から、利用者様の状況を適宜映像で確認することにより、不要な訪室を削減することが出来ます。これによって、利用者様の睡眠の質が向上し、当社が目標とする「夜間ぐっすりプロジェクト」を推進することができるようになりました。 ・「夜間ぐっすりプロジェクト」とは、医師と連携協力し、利用者様に質の高い睡眠をとっていただき、生活リズムを整え、より健康的に暮らしていただくことを目指す取り組みです。 ・結果的に本プロジェクトの推進により、夜勤職員の労務は軽減され、見守り業務に徹することにより、効率的に休憩時間を確保することが出来ることになりました。 ・また、本システム導入により、万が一発生した居室内の転倒転落事故に対し、その原因分析を具体的にまた速やかに実施し、再発防止策を講ずることが出来るようになり、結果として、行政、医療関係者、家族様に的確に状況を説明させていただき、より安心していただくことが可能となりました。これにより、事故対応に要していた人員、時間の削減ができました。 	
これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的に見守り体制が強化され、昼夜を問わず、ナースコールによって利用者様と職員が密にコミュニケーションを図ることが出来、介護サービスの質の向上につながりました。 ・ご利用者様の転倒・転落のメカニズムを探ることも可能となり、事故防止、より効果的な再発防止策を講じることが可能となりました。 ・本システムが、一人夜勤体制の職員をある意味、監理監督する役割も果たし、職員の意識改革、業務改善（業務怠慢の抑止）を促すことになりました。 	